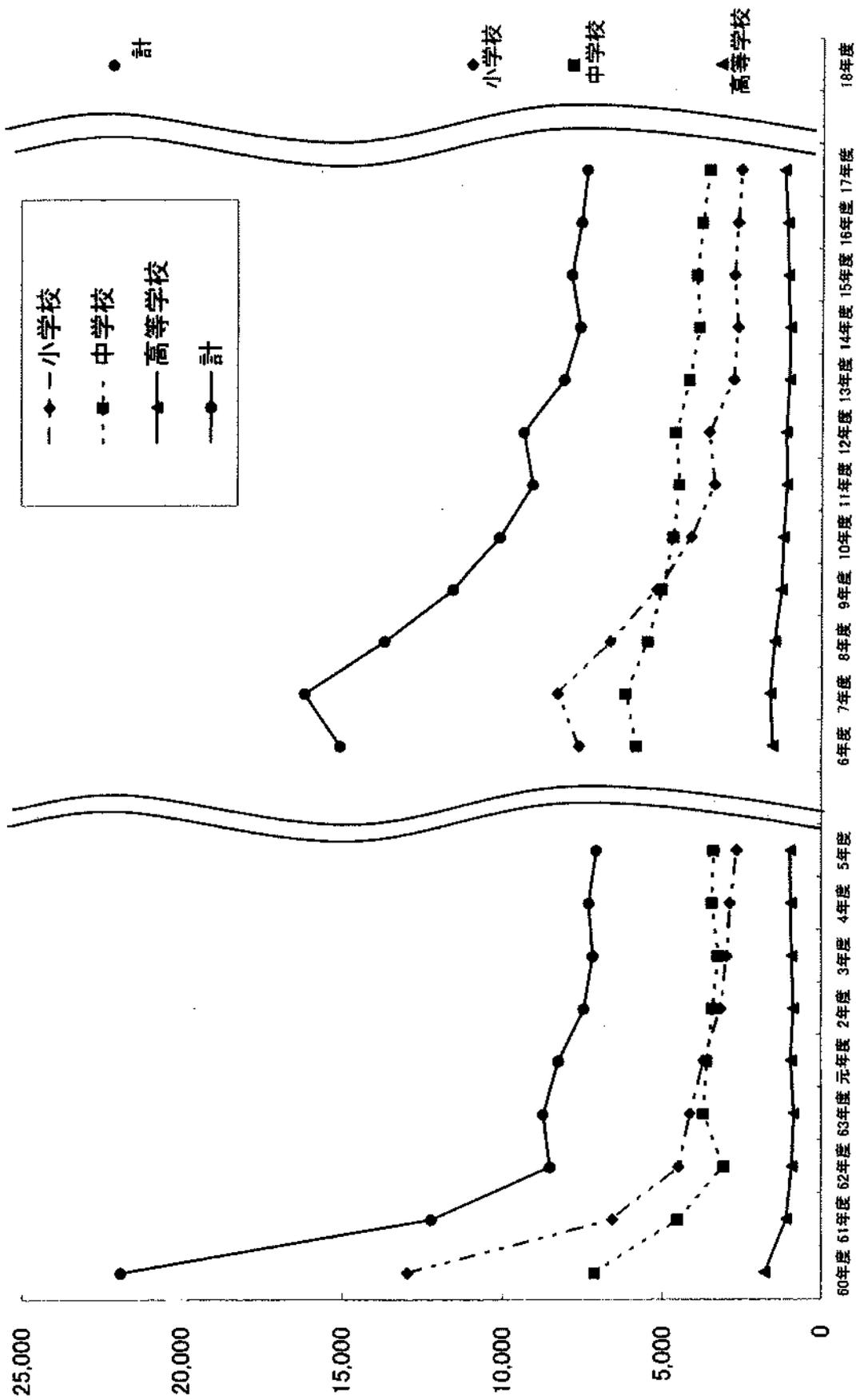


資料1 平成18年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について (平成19年11月)
文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/11/07110710/001/002.pdf

(参考3) いじめの認知(発生)学校数の推移



資料2 公の施設の指定管理者制度の導入状況に関する調査結果
(平成19年1月) 総務省自治行政局

表 指定管理者の選定手続別状況

(単位:施設、%)

	1 公募により 候補者を募集、 職員以外を中心 とした合議体によ り選定	2 公募により 候補者を募集、 職員を中心とし た合議体によ り選定	3 公募により 候補者を募集 (1・2以外)	(小計)公募によ り候補者を募集	4 従前の管理 委託者を公募の 方法によること なく選定	5 1～4以外の 方法により選定	合計
都道府県	2,218	812	595	3,625(51.2%)	3,353	105	7,083(100.0%)
指定都市	1,838	625	241	2,704(48.8%)	2,270	566	5,540(100.0%)
市区町村	3,192	6,811	1,581	11,584(23.7%)	32,286	5,072	48,942(100.0%)
合計	7,248	8,248	2,417	17,913(29.1%)	37,909	5,743	61,565(100.0%)

http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/070131_3_1.pdf

(参考)

上記資料から、文化・スポーツ活動を企画・運営(コーディネート)する能力をもった指導者が活躍できる就職先として、公の施設の指定管理者の文化・スポーツ活動の中核要員などが見込まれる。

資料 3

新設大学院に関するアンケート調査まとめ

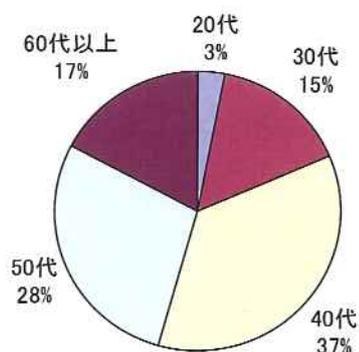
山形県内在住の個人に検討中の大学院修士課程教育文化研究科の構想についてアンケート調査(送付数:259 通、回収数:162 通、回収率:62.5%)を行なった。その結果をまとめて以下に示す。(平成 20 年 2 月実施)

質問 1. あなたご自身について伺います。各項目 1 つずつ選んで番号に○をつけてください。

(1) あなたの満年齢は何歳代ですか。

1. 20代(5) 2. 30代(25) 3. 40代(58) 4. 50代(46) 5. 60代以上(28)

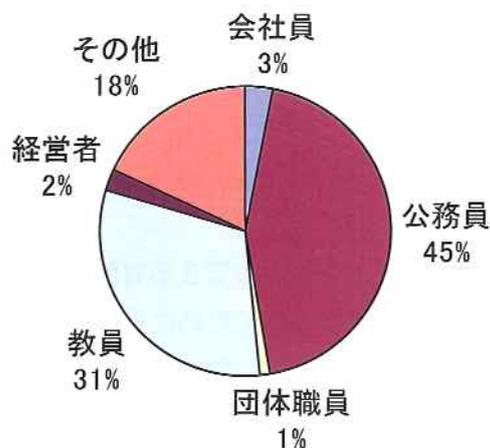
図 1 アンケート回答者の年齢構成



(2) あなたのご職業をお答え下さい。

1. 会社員・従業員(5) 2. 公務員(71) 3. 団体職員(2) 4. 教員(50)
5. 経営者・役員(4) 6. その他(29) (契約社員・専門職・臨床心理工 OSC・嘱託職員・非常勤・医療、病院・スクールカウンセラー・元公務員・農業・無職)

図2 回答者の職業



(3) あなたのお住まいの地域はどちらですか。市町村名を具体的にお書き下さい。

() 市・町・村

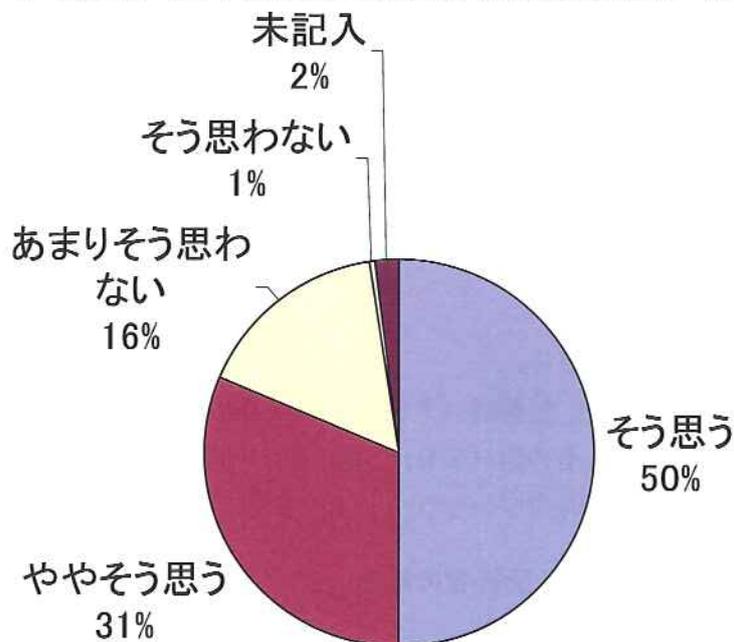
- 1、山形市(86) 2、天童市(13) 3、上山市(11) 4、村山市(2) 5、新庄市(9)
6、尾花沢市(1) 7、米沢市(5) 8、鶴岡市(12) 9、酒田市(3)
10、その他(20)(南陽市4・寒河江市3・長井市3・東根市2・白鷹町2・山辺町2・川西町1
・朝日町1・河北町1・福島市1)

質問2 地域教育文化学部が設置する新設大学院について

(1) 新しい、大学院修士課程が必要だと思いますか？(1つだけに○)

1. そう思う(81) 2. ややそう思う(51) 3. あまりそう思わない(26)
4. そう思わない(1) 5. 未記入(3)

図 3 新しい大学院修士課程が必要だと思いますか？



(2) 上のお答えの理由を自由にご記入下さい。

○「そう思う」を選択した方

- ・ 社会のニーズが多様化していく中で、それに応えることのできる専門的知識をもつ人材育成のため
- ・ 地域のニーズに適合した幅広い人材を養成・育成していくためにも、大学院設置は必要である
- ・ 高レベルの技能・能力を長期間にわたって地域に輩出していただくことは、地域の文化活動に大きく貢献してくれると思うから
- ・ 地域の活性化のため多様な人材の確保のため
- ・ 生涯を通して学習できる環境が必要なため
- ・ より専門的な学びの場が必要なため

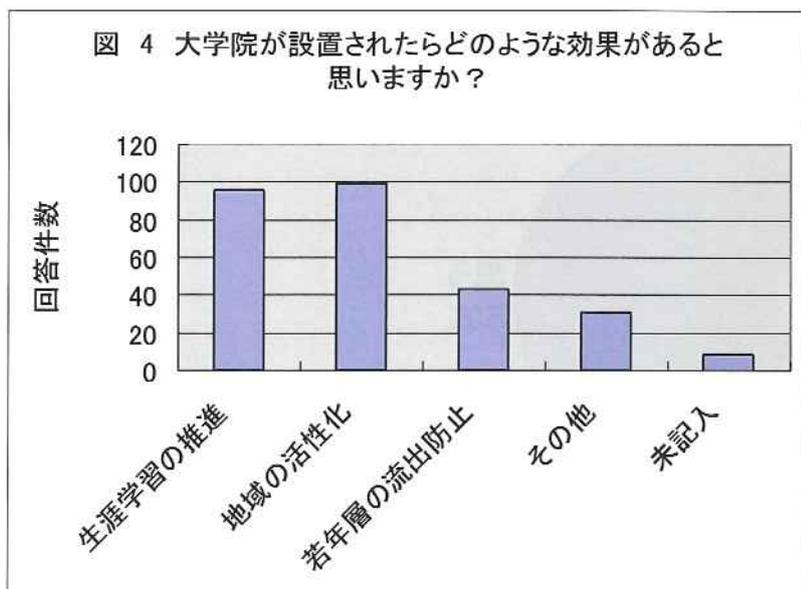
- ・この土地に内在する、風土性、文化性をより高度な研究によって深化していき、その成果を地域社会に還元するとともに内外に向け広く発信してほしいから
- ・国内で三本の指に入る“教育県山形”にとって遅い設置と考え、早急に取り組んで実現して欲しい
- ・人的な資質向上は、本県教育の質の向上に必ずや繋がると考える
- ・教員が自らの力量を高めたり、専門性の高い教員を育成したりすることは、教育の充実のために欠くことができないものだから
- ・学部が新しくなったからには、それに見合ったより実用的な教育研究機関が必要だから

○「ややそう思う」を選択した方

- ・教育の問題、特に児童・生徒の心の問題は、複雑化してきている。このようなことに専門的に取り組み、研究を深める必要性を感じている
- ・芸術・スポーツ分野で専門的に研究し、力をつけている人が足りないと感じている
- ・今求められているのは、高度で専門的知識を有する者であり、大学四年間では不十分であると考え
- ・上級の大学院に進む人が多くなっている中で、県内の受け皿としての大学院の数は必要と思われるため
- ・質的にも充実した大学院にしていただかないと、県の心理的業務の質も上がらないと思う
- ・「心の問題分野」及び「スポーツ科学分野」についての大学院は必要と思う
- ・仕事をしながら学べる場があれば助かります

(3) 大学院が設置されたら、どのような効果があると思いますか？（複数回答可）

1. 生涯学習の推進（96） 2. 地域の活性化（99） 3. 若年層の流出防止（43）
4. 効果なし（8） 5. その他（23） 6. 未記入（8）



○「5. その他」の意見

- ・人材育成、心の問題への対応

- ・ 教育研究の深化と実践的研究の進展
- ・ 地域課題の解決
- ・ スクールカウンセリングの充実
- ・ 学校教育の充実、信頼性の向上
- ・ 個人にとっての効果が主だと思う
- ・ 社会に出る為実践力を身につける
- ・ 研修の場の増加
- ・ 漠然としたものでなく、スクールカウンセラー養成など重点化すべき
- ・ 県内の各学校におけるそれらの分野での実践の充実

質問3 あなた個人の大学院に対するニーズを伺います。

(1) あなたは、条件が整えば大学院で学んでみたいと思いますか？

1. 思う (80) → どのような分野の大学院ですか？

※複数回答あり

- ・教育学 (10) ・心理学 (6) ・教育心理学 (3) ・臨床心理学 (10)
- ・政治学 (4) ・社会学 (9) ・歴史学 (3) 文学 (3) 芸術 (3) 人間文化 (3)
- ・生涯学習 (2) 医学 (2) ・自然科学 (1) ・音楽 (1) ・スポーツ科学 (1)
- ・カウンセリング (1) ・博士課程 (1) ・仕事関係の興味のある分野 (1)

2. 思わない (78)

3. 未記入 (1)

図 5-1 大学院へ進学したいと思いますか？

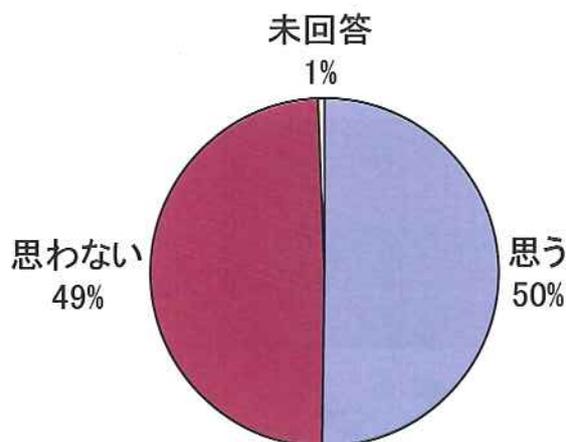
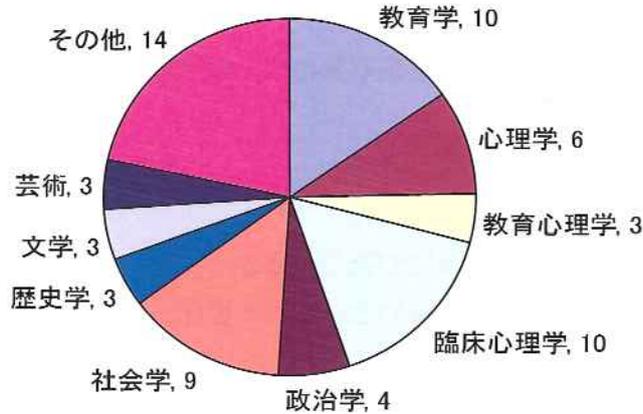


図 5-2 大学院で学びたい分野は何ですか？



(2) あなたは、大学院進学を考えたことがありますか、もしくは、現在通学していますか？

1. ある (通学している) (4 2)

→ どのような分野の大学院ですか？

・教育学 (7) ・臨床心理学 (6) ・教育心理学 (5) ・心理学 (4) ・歴史学 (4)
 ・人間文化 (1) ・文学 (1) ・経営学 (1) ・工学 (1)

→ 場所はどちらですか

・山形 (2) ・仙台 (3) ・東京 (3) ・京都 (1) ・神戸 (1)
 ・山形大学 (4) ・上越教育大学 (5)

2. ない (通学していない) (1 1 6)

3. 未記入 (4)

(3) あなたが大学院へ通うとしたら、その目的は何ですか？ (複数回答可)

1. 自己啓発 (1 1 6) 2. 進学・留学 (6) 3. 勤務先でのキャリア形成 (4 1)
 4. 修士学位の取得 (3 1) 5. その他 (6) 6. 未記入 (1 1)

○ 「5. その他」の意見

・研修の場として ・資格取得 ・地域社会への還元 ・研究 ・その職についている

(4) あなたは、臨床心理学という専攻に関心がありますか？

1. ある (1 2 5) 2. ない (3 3) 3. 未記入 (4)

(5) 上のお答えの理由を自由にご記入下さい。

○ 「ある」と答えた人の意見

・これからの社会にますます要求が高まっていくと思われるから

- ・生徒などのカウンセリングに興味があるため
- ・現在の仕事には必要な分野と考えられるから
- ・心理の探求について興味関心があるから
- ・学校現場においても、極めてニーズの高い分野だから
- ・心や体に支援が必要な方とコミュニケーションを取る為には、専門的な知識は必要不可欠なものであるから
- ・教員の基礎的素養として必須の分野であると思うから
- ・臨床心理分野の人材の安定的養成が必要不可欠だから
- ・教育実践と臨床心理学との関連を考えることがたびたびあるから
- ・人間関係に様々な問題、悩みを抱えている人が多いといわれる現在、その対応について、またその背景について関心があるため
- ・特別教育支援へ対応するため
- ・直面する教育問題の解決につながると考えるため
- ・複雑な犯罪による被害者が増大しており、適切なケアが必要であるから
- ・発達障害児が多くなりまだまだ現場では適切に対応しきれていないから

(6) あなたは、文化創造（音楽芸術分野、造形芸術分野、スポーツ科学分野）という専攻に関心がありますか？

1. ある（98）→どの分野でしょうか？

※複数回答者あり

- ・音楽芸術分野（53）
- ・造形芸術分野（31）
- ・スポーツ科学分野（37）

2. ない（55）

3. 未記入（9）

(7) 上のお答えの理由を自由にご記入下さい。

○「音楽芸術分野」を選択した方の理由

- ・地域社会コミュニティーを形成する主要な一分野であり、自己啓発、集団活動に欠かすことのできない分野であり幅広い高度な教養を必要とするから
- ・高齢化の進む山形では、個人的な趣味ばかりでなくグループによる活動を求める人が増加しており、特に音楽の分野では、指導者が少ないように感じられるので、地域で活動できる指導者が多くなるよう希望するから
- ・音楽・芸術に興味があり、学びたいと考えたから
- ・社会生活の潤いにつながる分野のため
- ・音楽が好きであるから
- ・「心」を育てるために非常に重要な役割を果たすと考えているから

- ・文化創造に力を入れることにより、情操の育成に大きな影響を及ぼすと考えから
- ・豊かに生きる力を自ら身につけるため
- ・今求められている分野である上、誰でも学び、参加することができると思うから
- ・音楽分野は、学校間の格差、教師間の格差が最も大きい分野であるから
- ・芸術を学ぶことは人生に花を添えることであると思うから
- ・専門的知識を持った学生と一緒に学びたいから
- ・地域の合唱団を運営する上で、大学の教授や学生の協力が必要であるから

○「造形芸術分野」を選択した方の理由

- ・文化を大切にし、また創造していくことは地域にとって必要なことだと考えるから
- ・芸術は人の心を動かす大きな力を持っていて、魅力的だから
- ・個人のこころの豊かさにとって芸術は不可欠であると考えため
- ・美術的活動が好きだから
- ・自分の考えを表現できることに興味があるため
- ・美術の教員免許を持っているから
- ・デザイン関係に興味があるから
- ・街づくり、都市景観をよりよくするため

○「スポーツ科学分野」を選択した方の理由

- ・科学的な裏づけのもと、生涯にわたって健康で充実したスポーツが体験できる社会作りに協力したいと考えるため
- ・スポーツの及ぼす健康面、心身の効果、効果的にスポーツの技術、力量が向上していく為には、科学的に追求する学問が必要であると考えから
- ・医科学的に裏打ちされたトレーニングによる、生涯スポーツの推進ならびに、競技力の向上が必要と考えるから
- ・生涯スポーツを普及させることは、将来の社会保障費支出の抑制に必要不可欠だと思うから
- ・子供たちに夢を描かせるスポーツのあり方が求められると考えるから
- ・スポーツを通しての人間形成が大切であると思うから
- ・山形県及び東北のスポーツの活性化につながると考えるから
- ・「生きる力」「生き抜く力」の基盤と考えるから
- ・部活動において貢献できそうだから
- ・自分の生活の重要な分野だから
- ・スポーツ全般に興味があるから
- ・鍼灸師だから
- ・大学時代に専攻していた分野と同様だから
- ・仕事に関係があるから

○複数回答者

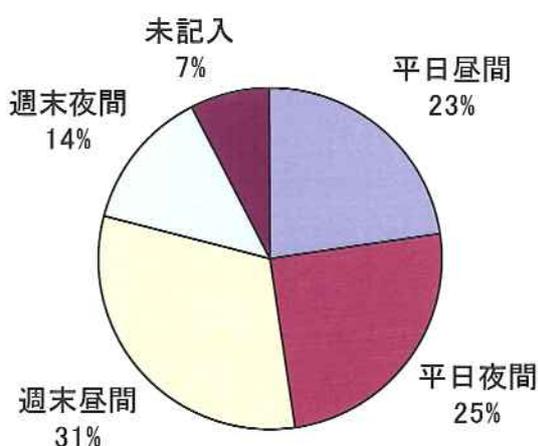
- ・三項目それぞれに興味があるから

- ・人間形成の上で欠くことのできないものであるにも関わらず、学校教育の中で必ずしも大切に考えられているとはいいがたいため
- ・生活や自然と文化の融合は、日本の大切な文化であり、伝承すべきことがたくさんあると考えるから
- ・子供の教育にも、生活に彩を添えるにも必要なものだから
- ・専門性のある人が県内に少ないと感じるから

(8) あなたが大学院へ通うとしたら、どのような時間帯を希望しますか？（1つだけに○）

1. 平日昼間（37）
2. 平日夜間（40）
3. 週末昼間（51）
4. 週末夜間（22）
5. 未記入（12）

図 6 どのような時間帯を希望しますか？



(9) 現在の仕事を続けながら、大学院に通うことはできますか？（1つだけに○）

1. できる（4）
2. 講義時間帯によってはできる（71）
3. 出来ない（76）
4. 未記入（11）

○その他、本学部又は新設大学院につきまして、ご要望等がありましたら、ご記入下さい。

- ・ぜひ地域に根ざした研究、地域づくりに寄与できる研究をお願いしたい
- ・社会人への門戸開放、リカレント教育の推進という視点からも、講座内容、受講形態、時間の設定などの検討をお願いします
- ・将来的に博士課程もできると良いと思う
- ・ブランド力をつけていくべき
- ・学んだことが自己啓発のみにとどまらず、地域社会への働きかけも伴うものでありたい
- ・単位取得についても地域への実際の関わりも含めて認める制度であってほしい
- ・情報を多くの手法を用いて、発信するよう勤めて欲しい

- ・学部名だけでは学びの内容が分かりにくいことがあるので、具体的に何をどのように学ぶことができるのか、確認できるパンフレットやホームページを準備しもっとPRして欲しい
- ・様々なニーズがあるとは思いますが、そのうちのどこをターゲットにするかある程度整理した上で動いていただけたらと思います
- ・特色ある教育研究機関となることを祈っております
- ・もし可能であれば、仕事を続けながら通うことのできるようなコースも設けて欲しい
- ・文系分野の博士課程の充実を図ることも必要と思われるので、検討をお願いいたします
- ・現在大学に通う学生だけでなく、社会で活躍している教員が道に迷った時にいつでも帰ってこれるような大学院にして欲しい
- ・教職専門職大学院と併設の新大学院は山形大学にとって不可欠です
- ・「教育実践の山形」に恥じないためにも、必ずや大学院を設置し後世に継いで欲しいものである
- ・「知」「技」「実践」のバランスの取れた人間（教師）の育成
- ・県内各地にキャンパスがある特性を活かして、受講（通学）しやすさを考えてもらえればと思う
- ・学生ボランティア（特別支援教育等）の活動を推進すべきである
- ・大学院が設置になったら、大いに地域との交流を深めていただき、文化面からの地域の活性化を図っていただきたい
- ・あくまでも、地域の特色を活かせるリーダーを育成する大学であって欲しい
- ・時間帯や講義の選択の仕方などを柔軟にしてもらいたい
- ・大学の集中講義の形はよいと思う
- ・夜間や週末にも利用できる制度があればと思う
- ・中高年向けの大学院は必要であるし需要も多いと思う
- ・山形大学においては、芸術やスポーツの分野でさらに科学の光をあててほしいし総合大学の利点を活かして欲しい
- ・将来更なるスペシャリストを養成・育成していき、より強力に地域社会の活性化を図っていくうえでも、早期の新設大学院設置を期待する

資料 4

新設大学院聞き取り（ニーズ）調査

I 山形県内教育委員会関連

1. 山形県教育委員会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習の推進に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼間及び週末夜間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

大学院修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・社会人の入学がしやすいように定員の余裕が欲しい（多めに）。
- ・臨床心理士のニーズが大きいので定員をより多くして欲しい。
- ・リカレント教育（学習）のニーズが高まるのでそれに答える大学院になって欲しい。
- ・社会に広く門戸を開いて欲しい。
- ・生活総合学科に接続する大学院はどうなるのですか？
- ・特別支援教育の大学院はどうなっているのですか？（大変設立が望まれる）

2. 山形市企画調整部 ※山形市は大学等の高等教育機関との対応は企画調整部

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習の推進、地域の活性化に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、平日夜間を希望する。

修業年限について、通常の2年間でよい。

○新設大学院についての要望。

- ・就職先の確保がどうなっているか心配である。大学側の努力に期待したい。

3. 鶴岡市教育委員会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習の推進に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。現職教員が入学しやすいシステムにして欲しい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼夜間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

○新設大学院についての要望。

- ・臨床心理士が欲しい。
- ・山形県と良く話し合って構想を煮詰めて欲しい。
- ・身分保障をして研修できるようにしていただければありがたい。
- ・社会教育のエキスパートが欲しい。
- ・社会教育課職員のスキルアップになればよい。
- ・生徒指導の分野で深い経験を有するカウンセラーが欲しい。
- ・学校現場から臨床心理専攻に進学できるような入学試験のシステムを考慮して欲しい。

- ・特別支援専攻が欲しい。

4. 置賜教育事務所

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習、地域の活性化、若年層の流出防止、資質向上に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。現職教員が入学しやすいシステムにして欲しい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼夜間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・臨床心理士の設置を望んでいる職員がいる。

5. 酒田市教育委員会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習推進に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼夜間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・臨床心理士の設置を望んでいる職員がいる。
- ・サテライトが利用できるようにして欲しい。（鶴岡キャンパス）
- ・具体的な資格、例えばコーチなどが取得できるようにしていただきたい。
- ・臨床心理士の資格を大学院修了時に取得できていると良い。
- ・教科の免許を持っていて、なおかつ臨床心理士の資格を持っている人は大変望ましい。

6. 上山市教育委員会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習推進、地域の活性化に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼夜間を希望する。

修業年限について、通常の方法でよい。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・生涯学習推進のために必要であると考える。
- ・大学と地域が連携するような方向で考えてほしい。

7. 新庄市教育委員会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習推進、地域の活性化に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

修業年限について、通常の方法でよい。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・専門的な知識や技能をもった人材を求める。

学校現場も多様であり、それに適切に対応できる教師が必要である。
スクールカウンセラーや表現教科の専門性の高い教師を求めている。
エリアキャンパス最上の活動も併行して継続して行ってほしい。

II 専攻・分野にかかわりのある企業・団体等

1. 山形県経営者協会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら地域の活性化に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・山形の地域に構想する大学院をどのようにマッチングさせるのか、図るのか、を考えて頂きたい。
- ・山形県の土台となっている歴史、文化、地域性を背景にした大学院教育を構想して頂きたい。
- ・当協会の会員の多くは製造業（ものづくり）に携わっているので、工学部とはまた、異なった観点から地域をサポートするような人材を育てて頂きたい。
- ・企業内でも社会一般と同様にメンタルヘルスの維持、ケアは非常に重要な課題となっており、臨床心理学専攻の立ち上げは重要だと思う。企業内の身近なところにメンタルヘルスに関わる相談者（カウンセラー）がいると大変役に立つ。
- ・東北公益文化大学や東北芸術工科大学などとの連携、単位互換などを行なえるように工夫して欲しい。
- ・構想する大学院が是非地域の方を向いた活動もして欲しい。大学院修士課程が設置されたおかげで地域の総合力が大幅にアップしたといわれるようなものにして欲しい。
- ・一度、企業を定年で退職された方の学習意欲を満足させるような存在であって欲しい。
- ・社会人でも入学できるように入学試験を社会人向けに工夫して欲しい、また、履修形態も柔軟な対応を御願いたい。
- ・大学教員を65歳定年でおやめになった人材の活用を考えて欲しい。地域の中で活用するか、工夫できればと考えている。大学院が主体になって、大学教員OBの力を借りて、地域全体の教育力アップの力になって欲しい。定年で退職された先生方の書籍の有効活用を工夫したらどうか。

2. 山形県臨床心理士会

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習の推進、地域の活性化、若年層の流出防止に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、週末昼夜間を希望する。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・ニーズはあるが、国家資格の問題等によりさまざまな雇用形態になっている現状である。大学院修了後に山形県の臨床心理士として活躍していただきたい。

3. 山形県芸術文化会議

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置されたら生涯学習の推進、地域の活性化に効果があると思う。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、通常時間帯でよい。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・学生も教員も市内に出てきて欲しい（活動が見えるように）。市民とのつながりを大切にして頂きたい。
- ・キャンパスの位置を考えて欲しい（例えば上山市と山形市の間、川崎電気の中央研究所の跡地）。街の活性化につながる。
- ・大学院の新設は文化の活性化に大いにつながる。是非立ち上げて欲しい。

III 民間企業

1. 山形銀行

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置された場合の効果について具体的に指摘するのは、難しい。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、平日夜間（17:50～21:10）及び週末の昼間。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・新設大学院の設置については総論としては賛成です。
- ・細部についてコメントはできない。
- ・従来と比べて学部卒も大学院卒も人間として幼く感じている。
- ・大学（院）自体がもっと社会に対して、産学協同、人材ネットワークなどを通じて、オープンになって欲しい。
- ・新設大学院の設置が山形県全体の教育力を高め、県の方、「県力」を高めることに寄与して欲しい。

2. NEC 山形

大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思う。

大学院が設置された場合の効果について生涯学習の推進、地域の活性化、若年層の流出防止に効果があると考えます。

社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよい。

平日昼間以外の授業の開講時間帯について、平日夜間（17:50～21:10）及び週末の昼夜間。

修業年限について、長期履修制度の適用を希望する。

修了生を採用する意思がある。

○新設大学院についての要望。

- ・他人と協調して仕事ができるようにコミュニケーション能力を育成してもらいたい。
- ・正解がある問題のみでなく、答えのないような多様な課題にチャレンジしてきて欲しい。
- ・「種には水をやらない。芽が出たら水をやる。」という考え方があり、へこたれずに自己主張できるような粘り強い人材が欲しい。
- ・目的をきちんともった人物を育成して欲しい。
- ・文化という面で首都圏を中心とした大都会に偏在している傾向は好ましいことではないので、山形独自の文化に寄与する人材を育成して頂きたい。

資料5

新設大学院聞き取り（ニーズ）調査 まとめ

山形県内の教育関係機関、経済界、設置を検討中の専攻・分野に関わる団体・企業などからの聞き取り調査の結果をまとめて以下に示す。

質問項目

Q1：新しい大学院・教育文化研究科（修士課程）必要だと思いますか？

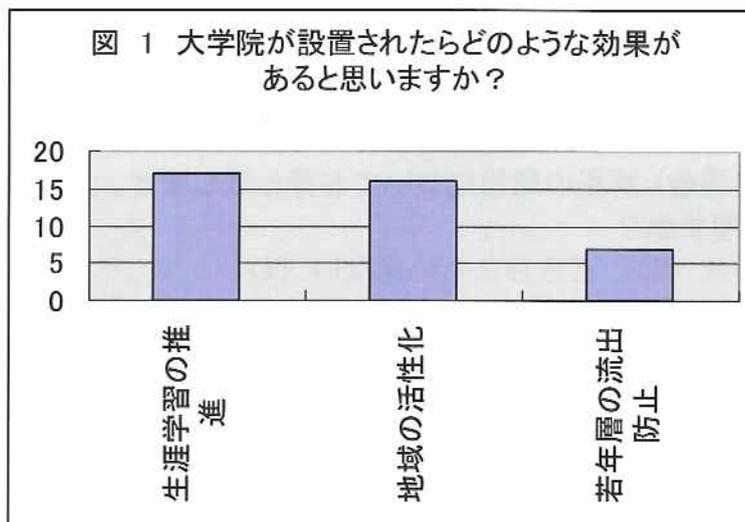
A： はい (21)、 いいえ (0)、 どちらともいえない (0)

Q2：大学院が設置されたらどのような効果があると思いますか？

A： ①生涯学習の推進 (17) ②地域の活性化 (16)

③若年層の流出防止 (7) ④効果なし (0)

⑤その他 (具体的に)



Q3：社会人の入学のための特別措置（入試方法、履修指導）があった方がよいですか？

A： はい (19)、 いいえ (1)、 どちらともいえない (1)

Q4：平日昼間以外の授業の開講時間帯について、希望がありますか？

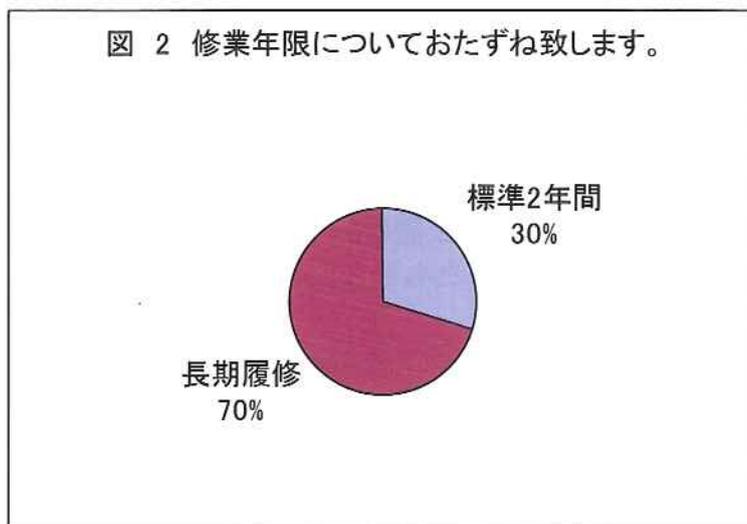
A： 通常の平日昼間の時間帯でよい (5)、

平日夜間 7 (18:00~21:00)

週末昼間 (9)、週末夜間 (5)

Q5：修業年限についておたずね致します。

A : 修業年限は通常の2年間でよい (6)
長期履修制度の適用を希望する (14)



Q 6 : (民間会社などの場合) 採用の意思についてお尋ね致します。大学院修了者を採用したいですか？

A : はい (14)、 いいえ (0)、 どちらともいえない (4)

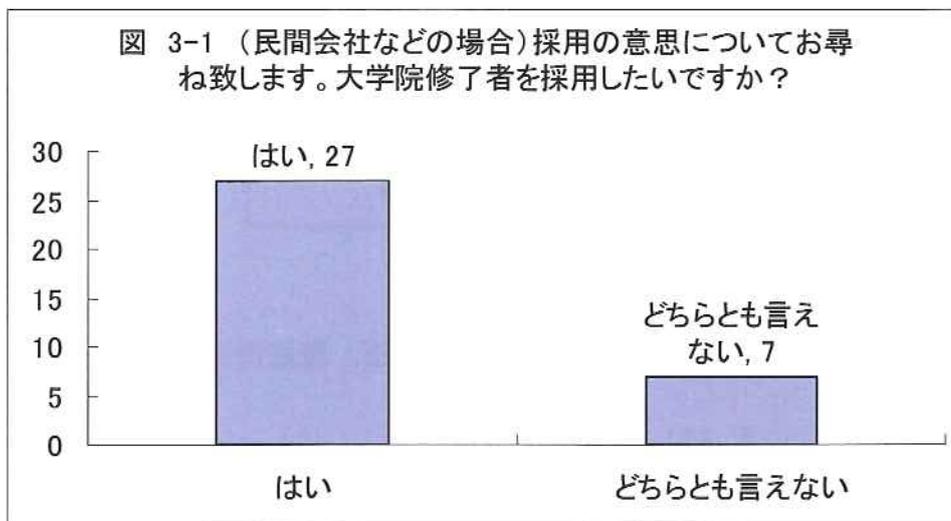
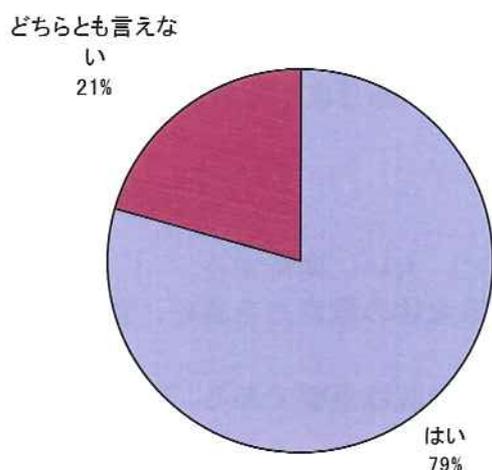


図 3-2 (民間会社などの場合)採用の意思についてお尋ね致します。大学院修了者を採用したいですか？



聞き取り調査で、教育文化研究科(案)の修了生について「受け入れ」を表明した企業・団体など

- 1 山形交響楽団
- 2 富岡本店
- 3 ヤマハ株式会社(仙台事業所)
- 4 ヤマハミュージック東北(仙台店)
- 5 (財)ヤマハ音楽振興会東日本指導室
- 6 菅野時計店
- 7 東京混声合唱団
- 8 (医療法人)秋野病院
- 9 (株)庄内銀行
- 10 山形ナショナル電気株式会社
- 11 山形県
- 12 山形市
- 13 山形県経営者協会
- 14 山形県臨床心理士会
- 15 山形県芸術文化会議
- 16 山形銀行
- 17 山形 NEC
- 18 山形美術館
- 19 セキスイハイム山形支店
- 20 清川屋
- 21 (財)山形県生涯学習文化財団
- 22 (財)山形県総合運動都市公園公社
- 23 山形県相談福祉センター
- 24 スポーツクラブトップロード

- 25 山形県体育協会
- 26 山形県臨床心理士会
- 27 (社) 被害者支援センター

Q7:新設大学院についてのご要望がありましたら、何でもお聞かせ下さい。(自由記述)

【構想全体について】

- ・ 山形大学の新しい大学院に、大いに期待する。
- ・ 新設大学院の設置が山形県全体の教育力を高め、県の力、「県力」を高めることに寄与して欲しい。
- ・ 研究水準を保つためにも大学院は重要である。連携して、お互いに高めあう関係を作っていきたい。
- ・ 大学と地域が連携（市民とのつながり）するような方向で考えてほしい。
- ・ 社会人の入学がしやすいように定員の余裕が欲しい（多めに）。
- ・ リカレント教育（学習）のニーズが高まるのでそれに答える大学院になって欲しい。
- ・ 山形県と良く話し合っって構想を煮詰めて欲しい。身分保障をして研修できるようにしていただければありがたい。
- ・ キャンパスの位置を考えて欲しい（例えば上山市と山形市の間、川崎電気の中央研究所の跡地）。街の活性化につながる。
- ・ 単に、アカデミズムの専門家ではなく、外に出てプロモートできるような積極的であり、なおかつ国際的な視野も持った人材を求める。
- ・ 新設大学院では修了後の出口のフォローをしっかりとっていただきたい。
- ・ コミュニケーション能力を開発するための工夫が必要であると思う。
- ・ 山形県の土台となっている歴史、文化、地域性を背景にした大学院教育を構想して頂きたい。
- ・ 東北公益文化大学や東北芸術工科大学などとの連携、単位互換などを行なえるように工夫して欲しい。
- ・ 社会人でも入学できるように入学試験を社会人向けに工夫して欲しい。また、履修形態も柔軟な対応を御願いたい。
- ・ 「種には水をやらない。芽が出たら水をやる。」という考え方があり、へこたれずに自己主張できるような粘り強い人材が欲しい。

【臨床心理学専攻について】

- ・ 臨床心理士のニーズが大きいので定員をより多くして欲しい。
- ・ 生徒指導の分野で深い経験を有するカウンセラーが欲しい。学校現場から臨床心理専攻に進学できるような入学試験のシステムを考慮して欲しい。
- ・ 教科の免許を持っていて、なおかつ臨床心理士の資格を持っている人は大変望ましい。
- ・ 大学院修了後に山形県の臨床心理士として活躍していただきたい。
- ・ 被害者支援センターの研修事業などに、大学からも、学生にも実習などの場として協力をいただくなどのつながりを持ちたい。

- ・ 企業内でも社会一般と同様にメンタルヘルスの維持、ケアは非常に重要な課題となっており、臨床心理学専攻の立ち上げは重要だと思う。企業内の身近なところにメンタルヘルスに関わる相談者（カウンセラー）がいると大変役に立つ。

【文化創造専攻全体について】

- ・ 大学院の新設は文化の活性化に大いにつながる。是非立ち上げて欲しい。
- ・ 社会教育のエキスパートが欲しい。社会教育課職員のスキルアップになればよい。
- ・ 生涯学習推進のために必要であるとする。
- ・ 現場で企画・運營業務ができるような人を養成してほしい。大学院在学中に、現場での実践実習をとおして、企画・運營業務の基礎を養ってはどうか。
- ・ ワークショップなどの教育普及活動のできるような人材。
- ・ 芸術を通して、人と社会のかかわりを深めることができる人材を求める。
- ・ 当協会（山形県経営者協会）の会員の多くは製造業（ものづくり）に携わっているため、工学部（工学研究科）とはまた、異なった観点から地域をサポートするような人材を育てて頂きたい。
- ・ 文化という面で首都圏を中心とした大都会に偏在している傾向は好ましいことではないので、山形独自の文化に寄与する人材を育成して頂きたい。

【音楽芸術分野について】

- ・ 演奏の専門家を輩出して欲しい。
- ・ 音楽の専門的な技量を持った上で、ステージの全ての事項をコントロールするような人材を養成して欲しい。その為の1ヶ月程度の研修の場を提供する用意はある（山形交響楽協会）。
- ・ これまで、過去の採用では山形大学の音楽科の卒業生は誠実で常識があり非常に評判が良かった。これからも力があって社会性がある卒業生を送り出して欲しい。

【造形芸術分野について】

- ・ オークションなどで芸術作品を媒介に交流できるプロモーター。
- ・ 企業や銀行などの芸術資産を管理・運営できる人材などの養成。
- ・ 表現教科の専門性の高い教師を求めている。

【スポーツ科学分野について】

- ・ 地域総合スポーツクラブの指導者が欲しい。
- ・ 具体的な資格、例えばコーチなどが取得できるようにしていただきたい。
- ・ 地域スポーツ活性化のためのシンクタンクの役割を担ってほしい。
- ・ 現場に向いて直接的な指導・助言のできるような人材の充実を期待する。

【その他】

- ・ 社会に広く門戸を開いて欲しい。生活総合学科に接続する大学院はどうなるのですか？
- ・ 特別支援専攻が欲しい。

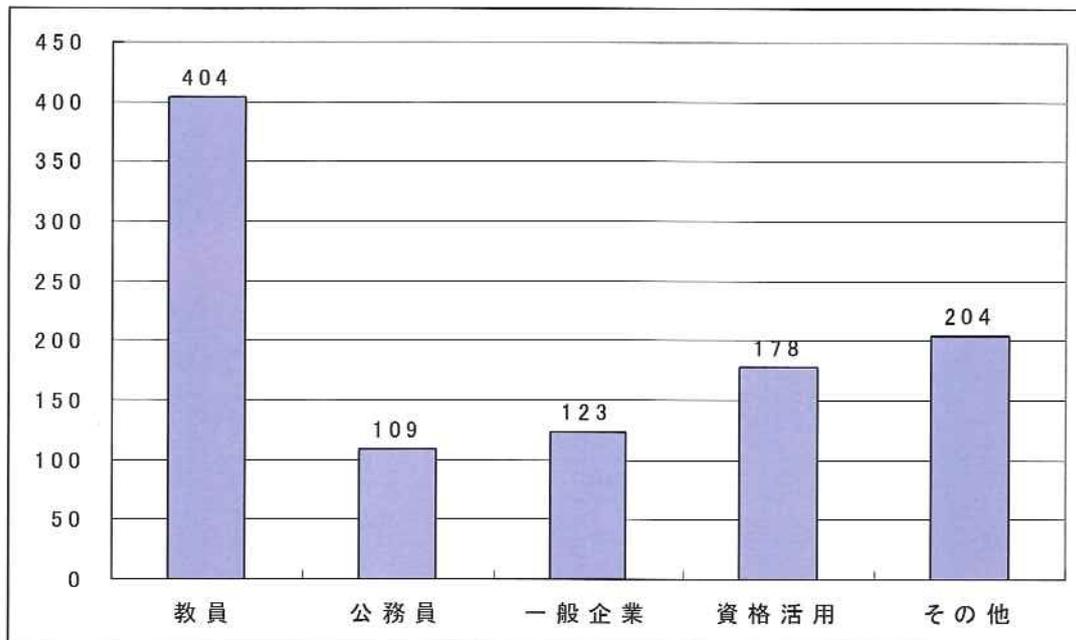
資料6

大学院修士課程への進学についてのアンケート

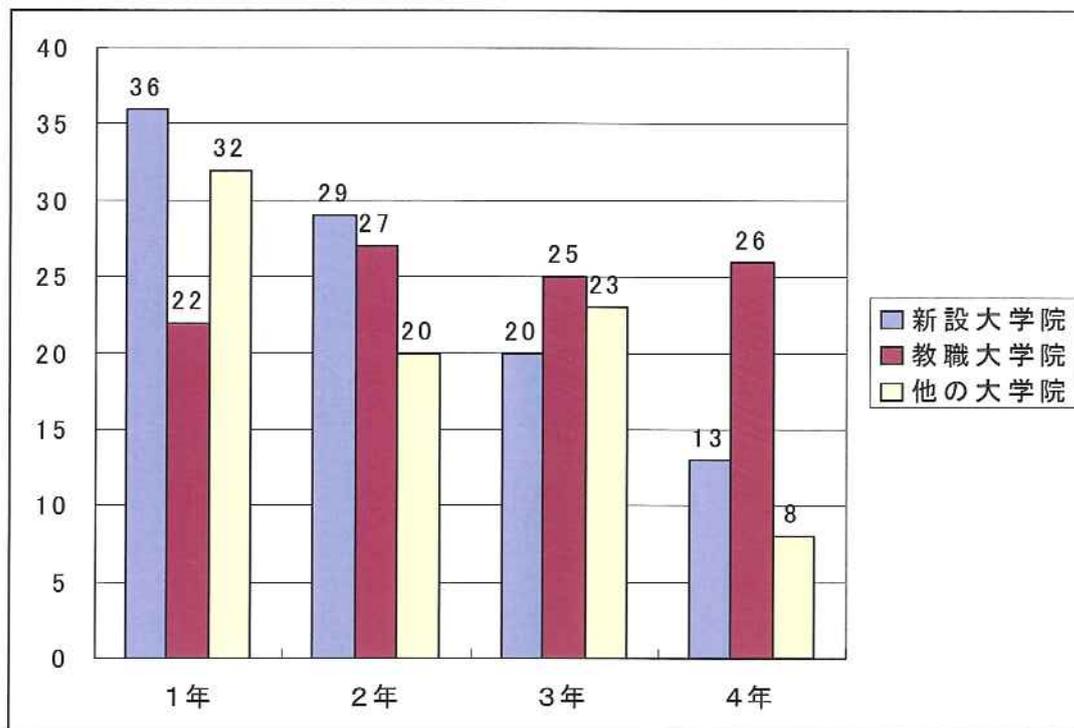
山形大学地域教育文化学部

※2007（平成19年）9月27日後期オリエンテーション時に全学部生を対象に実施。

Q. 将来の職業について（複数回答可）



Q. 大学院希望進学先について（「検討中」と回答した者を含む。）



地域教育文化研究科 修士課程 (14人)

心理学の基礎的知識を修めた学部卒業生
医療・福祉・教育分野で働きながら心のケアの専門家を目指す社会人

○ 臨床心理学専攻 (6人)
【臨床心理学に関する必修科目】
・臨床心理学特論A・B
・臨床心理学面接特論A・B
・臨床心理学査定演習A・B
・臨床心理学実習(初級・上級)

・教育・福祉・医療・保健・産業等の領域において、臨床心理学など心理学の知識や諸技法を活かしてこのケアに貢献できる人材
・学校におけるこのケアや犯罪被害者の心理的ケア等、地域のニーズに応じた実務的な能力を有し、こころのケアに関する高度な業務を担うことが出来る人材

臨床心理学など心理学の知識や諸技法を活かした、心にかかわる問題に専門家を

- 病院・臨床心理士
- 学校・スクールカウンセラー
- 大学・研究所・研究者
- 福祉施設・児童福祉施設・心理相談員

○ 文化創造専攻 (8人)

【専攻必修科目】
・生涯教育特論
・文化コーディネイト実習

音楽関係学部卒業生
交響楽団の運営に携わりながら文化活動の企画・運営能力の向上を目指す社会人

音楽芸術分野
【専門性向上科目】
・音楽表現演習(ピアノ)
・音楽表現演習(声楽)
・室内楽演習(器楽)
・総合舞台芸術演習(オペラ)

【理論的実践科目】
・総合音楽学
・音楽活動支援論
・音楽振興支援論

・音楽の専門分野における深い学識と高い表現能力を身につけた人材
・地域における音楽活動の指導的な役割を担う人材
・音楽の専門分野において地域貢献への企画・実践能力をもつ人材
・地域と協同して音楽芸術文化事業の振興に貢献できる人材

- 音楽関連産業・企画担当
- 音楽コーディネート

美術関係学部卒業生
企業等で働きながらメセナ事業などの企画・運営能力の向上を目指す社会人

造形芸術分野
【専門性向上科目】
・絵画・版画表現演習
・彫塑・立体表現演習
・デザイン表現演習
・平面造形演習

【理論的実践科目】
・アートマネジメント上論
・地域デザイン特論
・デザインマネジメント演習
・伝統文化論

・造形芸術の各専門領域の深い学識及び高度な専門的技術と指導力を兼ね備えた人材
・文化事業において、企画・運営・実践・指導を通して地域や社会の芸術文化の発展・振興に貢献し得る人材

- 公的施設・施設企画担当
- 一般企業・団体・セブテ(協賛)

体育関係学部卒業生
体育施設で働きながらスポーツイベントのコーディネート能力の向上を目指す社会人

スポーツ科学分野
【専門性向上科目】
・生涯スポーツ指論
・地域スポーツ指論
・スポーツマネジメント論
・スポーツ工学論

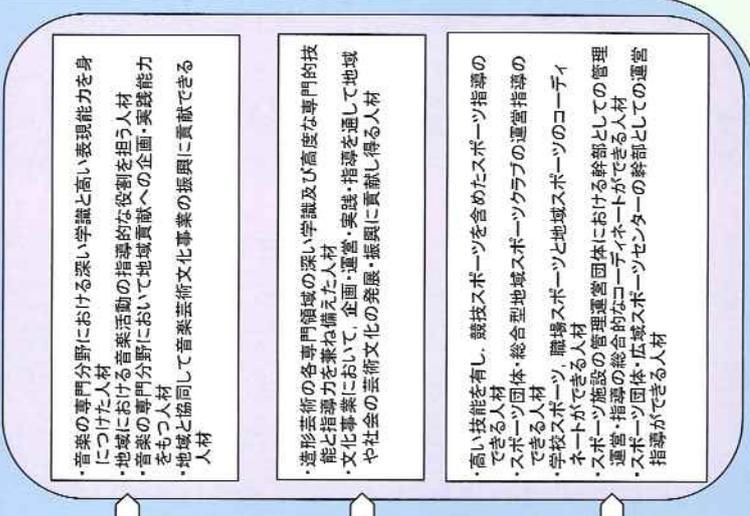
【理論的実践科目】
・現代スポーツ論
・スポーツ政策論
・生涯スポーツ学特論
・生涯スポーツマネジメント演習

・高い技能を有し、競技スポーツを含めたスポーツ指導の出来る人材
・スポーツ団体・総合型地域スポーツクラブの運営指導の出来る人材
・学校スポーツ、職場スポーツと地域スポーツのコーディネートができる人材
・スポーツ施設の管理運営団体における幹部としての管理運営・指導の総合的なコーディネートができる人材
・スポーツ団体・広域スポーツセンターの幹部としての運営指導ができる人材

- スポーツクラブ
- スポーツ指導
- 水泳指導
- 企業・企画・運営担当

芸術文化及びスポーツ振興の中心となるべき高度な専門性を有する人材

総合連携科目



資料 8

山形大学大学院教育学研究科（臨床心理学分野、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修）修了生の進路（平成 14～18 年度）

臨床心理学分野

平成 14～15 年度は修了生無し（平成 15 年度に臨床心理学分野を設置）

平成 16 年度 スクールカウンセラー 2 名、児童相談所 1 名、発達障害者支援センター 1 名、
児童養護施設 1 名、精神保健福祉センター 1 名、

平成 17 年度 医療機関臨床心理士 2 名、心理相談員 2 名

平成 18 年度 スクールカウンセラー 4 名、心理相談員 2 名、法務技官 1 名、児童相談所心
理判定員 1 名、福祉関係スタッフ 1 名

音楽教育専修

平成 14 年度 企業（音楽産業）1 名、公立学校（高）教員 2 名、

平成 15 年度 現職教員 1 名、公立学校（高）教員 2 名

平成 16 年度 現職教員 2 名、公立学校教員 2 名、私立学校教員 2 名

平成 17 年度 現職教員 1 名、

平成 18 年度 企業（音楽産業）1 名、公立学校（高）教員 1 名、進学 2 名、

美術教育専修

平成 14 年度 進学（留学）、現職教員 2 名、私立学校（高）教員 1 名、

平成 15 年度 現職教員 3 名、公立学校（小・中）教員 2 名

平成 16 年度 公立学校（養・中）教員 3 名、無職（主婦）1 名

平成 17 年度 美術館学芸員 1 名、現職教員 3 名、公立学校教員 1 名、

平成 18 年度 企業 1 名、現職教員 2 名、公立学校（高）教員 1 名、進学 1 名、

保健体育専修

平成 14 年度 現職教員 1 名、公立学校（小・中・高各 1）教員 3 名、進学 1 名

平成 15 年度 医療機関（健康運動士）1 名、企業 1 名、現職教員 1 名、

平成 16 年度 警察官 1 名、公立学校（中・高）教員 3 名、

平成 17 年度 スポーツトレーナー 1 名、公務員 1 名、企業 1 名

平成 18 年度 帰国（留学生）、現職教員 2 名、公立学校（高）教員 1 名、

＜教職研究総合センター心理教育相談室の体制＞

1. 心理教育相談室の受付時間

心理教育相談室において、事務員が相談室にいる電話申込受付時間は次のとおりである。
 月曜日～木曜（金曜日は閉室日です） 10:00～12:00、13:00～17:00
 土曜日（原則隔週） 10:00～16:00

2. 指導相談員（大学教員及び非常勤相談員／臨床心理士）の指導体制
 （指導相談員の1週間の実習指導担当曜日のローテーション）

① 相談室専任教員として、週当たり12時間程度従事して、大学院生の臨床心理実習を指導している教員

宮崎 昭（山形大学教職研究総合センター教授） 木曜日、土曜日
 佐藤 宏平（山形大学教職研究総合センター准教授） 水曜日、月曜日

② 相談室兼任教員として、本務に支障のない範囲で、概ね週当たり4時間程度従事して、大学院生の臨床心理実習を指導している教員

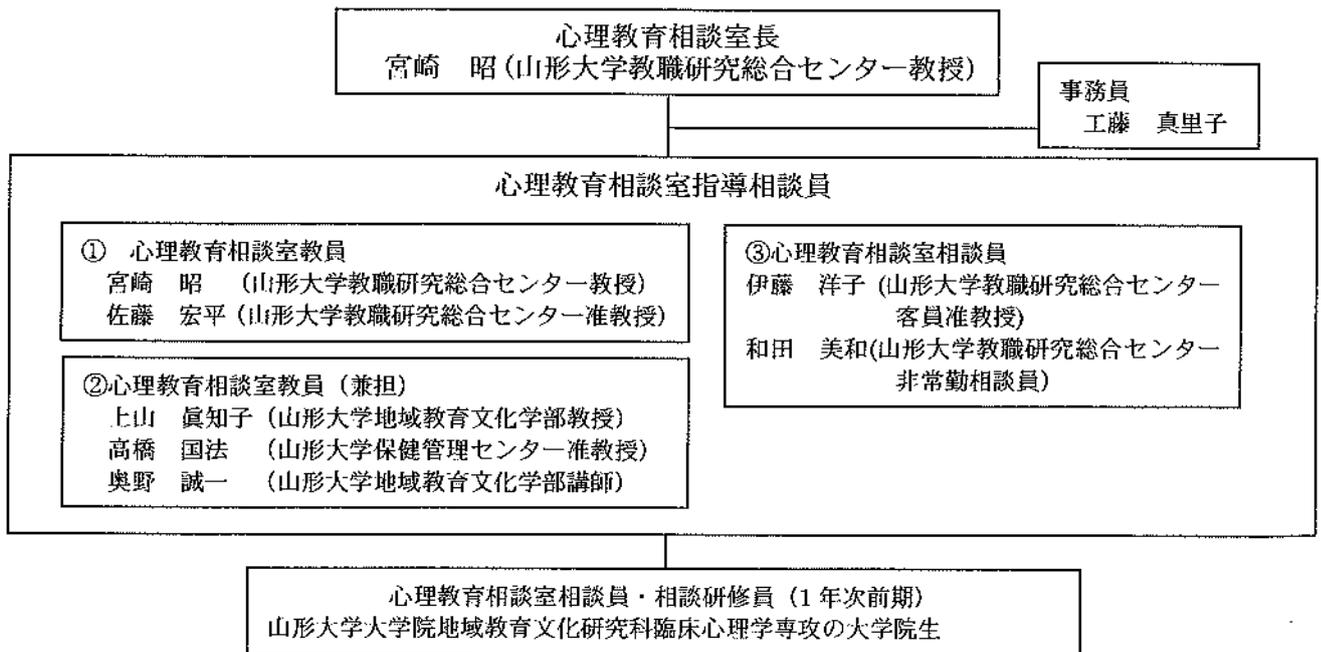
上山真知子（山形大学地域教育文化学部教授） 火曜日
 高橋 国法（山形大学保健管理センター准教授） 水曜日
 奥野 誠一（山形大学地域教育文化学部講師） 月曜日

③ 相談室相談員として、本務に支障のない範囲で、概ね週当たり2時間程度従事して、大学院生の臨床心理実習を指導している教員

伊藤 洋子（山形大学教職研究総合センター客員准教授・非常勤相談員） 土曜日
 和田 美和（非常勤相談員） 土曜日

なお、水曜日の9、10、11時間目は、隔週で、インテークカンファレンスとケースカンファレンスを開催し、上記①と②の教員全員が、年間に合計27時間にわたり大学院生の指導に当たっている。③の相談室相談員は、必要に応じてカンファレンスに参加している。

3. 心理教育相談室組織図



4. 心理教育相談室における大学院学生の実習状況

大学院学生は、心理教育相談室の開設日を月単位で当番制によって分担し、相談受付等の実習に当たっている。

また、2年次の臨床心理実習（上級）においては、4～7事例を担当して、年間に合計63時間の相談実習と、指導相談員のスーパービジョンを受けている。

そのほか、隔週の水曜日の9、10、11時間目は、大学院生全員が参加し、新規の受理事例についてインテークカンファレンスの時間を設けて、事例の受理の適否を検討し、インテークに関する実習を行うとともに、大学院生が行っている継続中の事例を検討するケースカンファレンスの時間を設け、年間に合計27時間の指導を受ける機会を設けている。

臨床心理学専攻における臨床心理実習（初級）・（上級）

ア 協力機関

(1) 協力機関について

臨床心理学専攻の目的である教育・福祉・医療・保健・産業等の領域において、臨床心理学など心理学の知識や諸技法を活かして、こころのケアに貢献できる高度な専門家を養成するためには、基本業務に関わる臨床心理面接特論や臨床心理査定演習の大学での授業のほかに、地域の中で様々な職種と共に柔軟に問題解決をはかることができる実務遂行能力と倫理性が求められる。そのために、山形大学教職研究総合センター心理教育相談室や外部の医療・保健・教育機関等において組織的・計画的な実習を経験する「臨床心理実習（初級・上級）」を必修とする。そのための協力機関として、大学内部の協力機関1機関、外部協力機関7機関に協力を依頼し承諾を得ている。なお、スクールカウンセラーが配置されている県内の中学校については、山形県教育委員会の了承のもと、複数の臨床心理士が配置された中学校に、年度毎に実習協力の依頼を行うこととなっている。（実習施設使用承諾書（抜粋）添付）

大学内部の心理教育相談室は、地域からの心理臨床援助の要請に応じた心理教育相談活動を行うとともに、臨床心理学専攻の大学院生の心理臨床教育を行うこと並びに心理臨床に関わる基礎・応用的研究及び研修活動を行うことを業務としている。面接の実績としては、平成19年1月から12月の1年間に1161回（延べ2,266人）の面接を実施している。

また、その成果は心理教育相談室紀要を発行して、研究成果を公表している。

一方、外部協力機関は、精神科医療機関、福祉相談機関、民間の発達障害相談療育機関、スクールカウンセリングを行う教育機関に幅広く協力を要請した。これは、臨床心理学専攻の大学院生が終了後に、それぞれ教育・福祉・医療・保健・産業等の専門領域に進むための実務教育として、重要な意義を持っている。

協力機関一覧（表1）

大学内部の協力機関
1, 山形大学教職研究総合センター心理教育相談室
外部協力機関
1, 医療法人二本松会山形さくら町病院
2, 医療法人社団斗南会秋野病院
3, 坂総合病院成人病クリニック
4, 医療法人社団 公徳会佐藤病院
5, 山形県福祉相談センター
6, NPO法人発達支援研究センター
7, スクールカウンセラーが配置された山形県内の中学校

(2) 協力機関以外の関係機関

臨床心理学専攻では、協力機関以外の特定の関係機関と、授業としての公的な連携は設けていない。しかし、これまでの教育学研究科臨床心理学分野は、日本心理臨床学会や山形県臨床心理士会、あるいは各種の臨床心理に関わる研究会・研修会と深いつながりを持っており、その中で大学院生はそれぞれの興味関心に応じた専門分野の知識を深めている。今後も、大学院生の自主性と専門性を高める機会として、こうしたつながりを継続していく。

イ 実習の具体的計画

(1) 実習の目標

一年次の臨床心理実習（初級）では、心理臨床施設の機能や運営方法に関する見学実習を手始めに、心理査定法と心理面接法（プレイセラピーを含む）を中心とした心理臨床技法の初級実習を行う。具体的には、ロールプレイや試行カウンセリングなどの体験学習を経験したあと、観察や陪席を通して心理教育相談室での実習を行い、実際の心理臨床施設での業務を理解できることを目標とする。

二年次の臨床心理実習（上級）では、教職研究総合センター心理教育相談室、ならびに地域の医療、あるいは教育、福祉に関する地域の心理臨床施設において、心理臨床業務についての実習を行う。

(2) 実習の内容（授業名、対象、開講期と単位、実習内容・時間配分、方法等）

<臨床心理実習（初級）1年次>

- 1) 授業名：臨床心理実習（初級）（担当：藤岡久美子・佐藤宏平・高橋国法）
- 2) 対象：臨床心理学専攻1年次
- 3) 開講期と単位：2単位（前期と後期をあわせた通年）
- 4) 実習内容

共通に設定された授業時間（水曜日 18:00～19:30）に行う実習として、心理教育相談室カンファレンスへの参加及び体験学習を、複数教官によって行っている。1週1回 1.5時間とし、通年で30回を1単位とする。

・ 教職研究総合センター心理教育相談室カンファレンス参加【27時間】

- ▶ 教職研究総合センター心理教育相談室のインテークカンファレンス及びケースカンファレンスへの参加により、多数の事例の実際に触れ、心理臨床に必要な基本的資質を高める。

前期（4月～9月）：1.5時間×9回（第2，4水曜日）＝13.5時間

後期（10月～3月）：1.5時間×9回（第2，4水曜日）＝13.5時間

・ 体験学習【18時間】

- ▶ ①ロールプレイを通じて臨床心理面接の基礎的技法を修得する。
- ▶ ②観察、陪席、補助セラピストとして担当した事例に関して報告会（模擬カンファレンス）を行い、ケースレポートの作成方法や、ケースの発表の仕方について学ぶ。

前期（4月～9月）： 1.5時間×6回（第1，3水曜日）＝9.0時間

後期（10月～3月）： 1.5時間×6回（第1，3水曜日）＝9.0時間

・ 教職研究総合センター心理教育相談室における臨床心理基礎実習【45時間】

- 共通に設定された授業時間以外に、心理教育相談室の事例に対する心理臨床面接の観察、陪席ならびに補助セラピストとしての参加を実施する。また、適応指導教室等、外部施設における心理臨床活動を推奨し、そこでの活動に関するスーパービジョンを行う。

<臨床心理実習（上級）2年次>

1) 授業名：臨床心理実習上級（担当：宮崎 昭・奥野誠一・伊藤洋子）

2) 対象：臨床心理学専攻2年次

（ただし、臨床心理実習初級の単位取得をしていること）

3) 開講期と単位：2単位（前期と後期をあわせた通年）

4) 実習内容

教職研究総合センター心理教育相談室、ならびに地域の医療、あるいは教育、福祉に関する地域の心理臨床施設において、心理臨床業務についての実習を行う。

・ 教職研究総合センター心理教育相談室における実習【90時間】

ア) 事例担当（補助セラピスト・陪席を含む）実習：①～④について45時間以上の実習を行う。

① インテーク面接実習

② 心理面接実習（カウンセリング、プレイセラピー、心理療法実習）

③ 心理査定実習（発達検査、知能検査、質問紙検査、投映法検査、描画テスト等）

④ グループ指導実習（児童グループ、保護者グループ等）

イ) 事例研究実習：⑤と⑥について、18時間以上の実習を行う。

⑤ スーパービジョン（担当事例についての指導教員からのスーパービジョン）

⑥ 事例研究ならびに発表（事例研究、事例発表、教育相談室紀要への発表など）

ウ) カンファレンス参加実習：27時間

⑦ ケースカンファレンス参加（インテークカンファレンスを含む）

（原則第二、第三水曜日 18:00～19:30）×年間18回＝27時間

・ 外部実習協力機関における実習【90時間】

（希望者のうち、外部実習協力機関での実習が適切と判断された学生に限る）

ア) 大学における指導教官による実習指導（10時間以上）

イ) 施設における実習指導時間（80時間以上：1日8時間10日間以上）

形式：① 集中的に1日8時間、10日間（2週間）連続の実習を行う。

② 週に4～8時間、10～20週間にわたって実習を行う。

ウ) 実習内容

① 施設の概要と業務についての理解

② 管理業務の実習：面接室等の環境整備、スケジュール作成や事前準備など

③ 心理的援助の実習：個別面接、心理検査、グループ面接（デイケアを含む）など

④ スタッフ間連携の実習：関連スタッフとの連絡、情報交換など

⑤記録・報告の実習：実習の記録と報告、ならびにその管理方法など

ウ 実習の進め方

(1) 学生へのオリエンテーションの内容・方法・フィードバック等の方法

入学直後のオリエンテーション時に、教職研究総合センター心理教育相談室の見学を行うとともに、臨床心理学専攻教員から「実習手帳」を渡し、実習の概要について説明する。

また、2年次になる前に外部実習オリエンテーションを開催し、実習機関の担当、実習日程、実習内容、実施方法及び実習中の課題と評価などについて説明する。

(2) 実習の記録作成・提出・フィードバック、アドバイス等の方法

教職研究総合センター心理教育相談室での事例担当における学生へのフィードバックとアドバイスは、スーパービジョンという形で事例指導教員が行う。初級実習では、陪席ならびに補助セラピストとしての参加した事例についてスーパービジョンを行う。また、上級実習では、事例担当（補助セラピスト・陪席を含む）実習45時間に対して、18時間以上のスーパービジョンを受ける。

上級実習の外部機関における実習では、実習勤務日毎に実習手帳に実習記録を記載し、実習機関の臨床心理士から実習手帳に毎日アドバイスを記載していただく。また、実習期間終了後に総合的な実習報告をまとめる。さらに、実習終了後に、大学において実習報告会を開き、実習経過を発表して大学の教員から事後指導を受ける。

(3) 各施設での指導者の配置状況

教職研究総合センター心理教育相談室における実習では、担当である大学教員が中心となって指導する。また、客員教員を上級実習の相談指導担当として1名当てている。

外部機関における実習では、基本的にその施設の2名の臨床心理士を特定して指導担当者として依頼している。ただし、他職種との連携の観点から、臨床心理士の指導の下で、様々な他職種との連携業務に当たって他職種からの指導を受ける場面も設ける。

(4) 実習における施設との調整・連絡・緊急時対応等

教職研究総合センター心理教育相談室における実習では、「相談研修員」の届け出と承認を持って、実習に当たる。また、1年次後期からは、前期の学習状況に応じて「相談員」として届け出を行い、承認を受けて実習に当たる。「相談研修員」「相談員」の承認は、教職研究総合センター心理教育相談室長が行う。

外部機関における実習では、1年次末に実習希望をとり、担当を調整の上、協力機関に実習受け入れを文書で依頼する。また、大学の管理担当教員を定めて、実習開始一ヶ月前頃に実習開始届を大学に提出させて、具体的な日程や実習方法、持ち物、心構えなどの調整を行う。また、不測の事態があった場合には、外部実習先で指導に当たる臨床心理士とその機関の管理職ならびに管理担当教員に連絡を取って、緊急時対応策をとる。

なお、実習に当たっては、学生に任意保険に加入させ、学生の事故、実習先での事故等の保証に備える。

エ 単位認定等評価方法

(1) 実習に関する評価方法

授業としての体験学習はその指導者がそれぞれ評価を行う。

教職研究総合センター心理教育相談室での事例実習あるいはスーパービジョンでは、その事例の指導教員が実施した実習内容を確認して実習手帳に捺印する。また、インテークカンファレンス及びケースカンファレンスの実習については、実習の管理担当教員が捺印する。

外部実習協力機関における実習では、毎日の実習内容を協力機関の臨床心理士が評価し、フィードバックのコメントを記載して捺印する。大学の管理担当教員は、その記録をチェックするとともに、外部実習終了後に外部実習のまとめのレポートと「外部実習報告会」の発表について評価を行う。

上記の、体験学習の記録、教職研究総合センター心理教育相談室の記録、外部実習の記録を記載した「実習手帳」を年度末に提出させ、その内容が規定の水準に達しているかどうかを総合的に判断して、管理担当教員が評価する。

(2) 大学における単位認定方法

「実習手帳」の実習記録ならびに「外部実習報告会」の内容を専任教員の実習評価会議にかけて総合的に評価する。S (90点以上)、A (80-89点)、B (70-79点)、C (60-69点)、D (59点以下) とし、SからCまでを合格、Dを不合格とする。

「文化創造専攻」の教育課程編成の考え方

1. 教育課程編成上の特色

文化創造専攻は、音楽芸術、造形芸術及びスポーツ科学の各分野における特性を極めつつ、それぞれの領域で修得する専門知識と技能をより一層实际的に活用できるよう、

- ① 生涯学習の観点から、高齢化社会における生涯学習の意義と役割を理解するとともに、高齢化社会に到達したこれからの地域社会の中で豊かな人生の創造に向けて人間文化全体を貫く倫理観や価値観を考察し、
- ② それぞれの専門分野の視野を広げる観点から、現代の文化活動において各専門領域が相互に関連し相乗効果を有している点に着目し所属する専門領域以外の学理を理解し、又は、指導者としてメンタルヘルス面の重要性に着目しこころの動きの機序等に関する学理を理解し
- ③ 文化活動に関する多様な実践力を高める観点から、インターンシップを取り入れ、実際の活動現場に出向き蓄積された技術・技能を実践し評価し更に進むべき方向性・課題を明確にすることとし、

総合的な学識を修得することを特色としている。

そのうえで、音楽芸術、造形芸術及びスポーツ科学の各分野における専門的な知識・技能を系統的に修得することができるよう授業科目を配置し、芸術文化・スポーツ振興の中心的担い手の養成を日指している。

2. 教育課程の基本的構成

上記に基づき、学生は1年次に、①による「生涯教育特論」を必修とし、その後、②による「総合連携科目」(選択必修)を少なくとも1科目2単位以上修得し、各専門領域で学ぶ専門的な知識・技能に対する文化創造専攻が目指す視点を修得しつつ、音楽芸術、造形芸術及びスポーツ科学での各分野における専門的な知識・技能を系統的に修得する。

2年次日には、1年次に修得された生涯学習の視点及び専門領域を横断する幅広い視野を基本に据えつつ、それぞれの専門分野で修得した深い専門知識を実践の場に移すため、③によるインターンシップとしての「文化コーディネート実習」を社団法人山形交響楽団や財団法人山形美術館又は財団法人山形県総合運動都市公園公社等において実施する。

また、1年次と2年次にわたって、特別研究Ⅰ・Ⅱを必修とし、各専門分野における課題を設定して研究することとし、専門的知識技術・技能の修得を目指す。

以上の教育課程において、学生は、音楽芸術、造形芸術及びスポーツ科学の各分野における専門的な知識・技能を系統的に学ぶとともに、人間文化全般を貫く高い倫理観と文化に関する総合的な広い視野及び文化活動に関する実践力を涵養することができる。

文化創造専攻の教育課程の特性

concept

- 専攻、分野を部分的に連携融合する編成
- 専門的な知識・技能を系統的に学ぶカリキュラム

2 年次

専攻共通

特別研究Ⅱ・特定課題研究

専攻共通

文化コーデイネート実習

文化活動に関する多様な実践力を涵養

音楽

造形

スポーツ

1 年次

専攻共通

特別研究Ⅰ・特定課題研究

総合連携科目（他専攻・他分野）

人間文化に関する総合的な広い視野を涵養

専攻共通

生涯教育特論

人間文化全体を貫く高い倫理観を涵養

音楽に関する基礎知識・技能

美術に関する基礎知識・技能

スポーツに関する基礎知識・技能

音楽芸術分野

造形芸術分野

スポーツ科学分野

地域教育文化研究科 文化創造専攻

文化創造専攻音楽芸術分野

高度な専門的技能と指導力を兼ね備え
文化政策、アートマネジメントや音楽演奏に関する実践的な能力を涵養し
地域や社会の芸術文化の発展・振興に貢献し得る人材の養成

修了研究課題の探求

地域の芸術文化をコーディネートできる
実践的な応用能力の育成

特別研究Ⅱ (4単位)

二 年 次

- 専攻必修科目(2科目4単位)
- ・「文化コーディネート実習(音楽)」
(音楽芸術分野教員)
 - ・「総合舞台芸術実習(オペラ)」
(藤野・渡辺)

分野別必修科目(2科目4単位)

- ・「音楽活動支援論」(鈴木渉)
 - ・「伝統音楽論」(塚原)
- 分野別選択科目
- ・「日本伝統音楽文化演習A・B」(渡部)
 - ・「総合音楽学」(柘植)
 - ・「音楽振興支援論」(鈴木)

地域の伝統的芸術文化や
音楽振興についての知識・理解

分野の高い専門性と
高度な演奏能力の養成

- 分野別必修科目(2科目4単位)
- ・「音楽表現演習(ピアノ)A・B」(伊達)
 - ・「音楽表現演習(声楽)A・B」(藤野)
 - ・「音楽表現演習(管弦打)A・B」(河野・渡辺)
 - ・「音楽表現演習(作曲)A・B」(長谷川)
- ※上記から1科目必修
- 分野別選択科目
- ・「室内楽演習(器楽)A・B」(河野・伊達・渡辺)
 - ・「室内楽演習(声楽)A・B」(藤野・渡辺)
 - ・「総合舞台芸術演習(オペラ)A・B」(藤野・渡辺)

特別研究Ⅰ (4単位)

一 年 次

総合連携科目(1科目2単位以上)

☆他分野で設定した科目から選択

- ・伝統文化論(宮島)
- ・地域デザイン特論(佐藤)
- ・芸術と文化政策(小林)
- ・現代スポーツ論(高橋)
- ・スポーツ政策論(鈴木漢)
- ・地域スポーツ文化論(竹田)
- ・発達心理学特論(島山)
- ・大脳生理学特論(大村)
- ・犯罪・矯正心理学特論(小島)

分野を越えた幅広い視野の育成

分野を越えて文化創造のベースとなる
生涯教育の基礎的知識と能力の養成

分野共通必修科目(1科目2単位)

「生涯教育特論」(鈴木渉・鈴木漢・降旗)

文化創造専攻造形芸術分野

高度な専門的技能と指導力を兼ね備え
文化政策やアートマネジメント・デザインマネジメントに関する実践的な能力を涵養し
地域や社会の芸術文化の発展・振興に貢献し得る人材の養成

修了研究課題の探求

地域の芸術文化をコーディネートできる
実践的な応用能力の育成

特別研究Ⅱ (4単位)

特別研究Ⅰ (4単位)

分野別必修科目(3科目6単位)

- ・「絵画・版表現演習」(八木)
- ・「彫塑・立体表現演習」(雨宮)
- ・「デザイン・方法論」(和田)

分野別選択科目

- ・「デザイン表現演習」(齋藤)
- ・「平面造形演習」(八木)
- ・「立体造形演習」(雨宮)
- ・「美学・芸術学演習」(元木)
- ・「デザイン・プロジェクト演習」(和田)
- ・「造形芸術教育特論」(降旗)
- ・「美学・芸術学特論」(元木)

分野共通必修科目(1科目2単位)

- ・「生涯教育特論」(鈴木漠・降旗)

地域の伝統的芸術文化や
地域産業についての知識・理解

分野の高い専門性と
高度な能力の養成

分野を越えた幅広い視野の養成

分野を越えて文化創造のベースとなる
生涯教育の基礎的知識と能力の養成

二年次

- 専攻必修科目(1科目2単位)
- ・「文化コーディネート実習(造形)」(小林)
- 分野選択科目
- ・「デザイン・マネジメント演習」(齋藤)

専攻必修科目(2科目4単位)

- ・「伝統文化論」(宮島)
 - ・「アートマネジメント論」(宮島)
- 分野別選択科目
- ・「芸術と文化政策」(小林)
 - ・「地域デザイン特論」(佐藤)
 - ・「地域産業開発演習」(早坂)
 - ・「地域伝統造形演習Ⅰ」(横倉)

一年次

総合連携科目(1科目2単位以上)

☆他分野で設定した科目から選択

- ・室内楽演習(音楽)A(藤野・渡辺)
- ・室内楽演習(器楽)A(伊達・河野・渡辺)
- ・音楽活動支援論(鈴木涉)
- ・現代スポーツ論(高橋)
- ・スポーツ政策論(鈴木漠)
- ・地域スポーツ文化論(竹田)
- ・発達心理学特論(豊山)
- ・大脳生理学特論(大村)
- ・犯罪・矯正心理学特論(小島)

文化創造専攻スポーツ科学分野

高度な専門的技能と指導力を兼ね備え
 スポーツ政策や生涯スポーツ活動のコーディネートや
 マネジメントに関する実践的な能力を涵養し、生涯スポーツ社会構築を
 積極的に推進することのできる人材の養成

修了研究課題の探求

地域のスポーツ活動をコーディネートする
 実践的な応用能力育成

特別研究Ⅱ (4単位)

- 専攻必修科目(2科目4単位)
- ・「文化コーディネート実習(スポーツ)」
(スポーツ科学分野教員)
 - ・「生涯スポーツマネジメント演習」(笹瀬)

分野別必修科目(3科目6単位)

- ・「スポーツ政策論」(鈴木)
 - ・「生涯スポーツ学特論」(笹瀬)
 - ・「伝統スポーツ論」(竹田)
- 分野別選択科目
- ・「地域スポーツ指導論」(大神)
 - ・「地域スポーツ文化論」(竹田)
 - ・「生涯スポーツホールゲーム論」(大神)
 - ・「アクトピアスポーツ演習」(長井)

地域の伝統的スポーツ文化や
 生涯スポーツ活動の理解と
 スポーツコーディネータ能力の養成

分野別必修科目(1科目2単位)

- ・「現代スポーツ論」(高橋)
- ・「生涯スポーツ生理学」(大貫)
- ・「スポーツメカニクス論」(工藤)
- ・「スポーツ工学論」(角南)
- ・「健康スポーツ論」(新井)
- ・「スポーツ史演習」(高橋)
- ・「生涯ヘルスプロモーション演習」(大貫)
- ・「スポーツバイオメカニクス演習」(角南)
- ・「スポーツ教育法Ⅰ」(鈴木)
- ・「スポーツ教育法Ⅱ」(長井)

分野の高い専門性と
 高度な能力の養成

分野を越えた幅広い視野の養成

分野を越えて文化創造のベースとなる
 生涯教育の基礎的知識と能力の養成

特別研究Ⅰ (4単位)

一年次

総合連携科目(1科目2単位以上)

☆他分野で設定した科目から選択

- ・室内楽演習(音楽)A(藤野・渡辺)
- ・室内楽演習(器楽)A(伊達・河野・渡辺)
- ・音楽活動支援論(鈴木涉)
- ・伝統文化論(宮島)
- ・地域デザイン特論(佐藤)
- ・芸術と文化政策(小林)
- ・発達心理学特論(島山)
- ・大脳生理学特論(大村)
- ・犯罪・矯正心理学特論(小島)

二年次



音楽芸術・造形芸術・スポーツ科学は、生涯教育を構成する重要な要素である。文化創造専攻の目標である文化の振興を担う高度の専門的な職業人を養成するには、生涯教育の意義と役割や、現状と課題について高い倫理観と広い視野から理解を深めることが必要であることから、「生涯教育特論」を開設する。

【授業の到達目標】

高齢化社会における生涯教育（学習）の意義と役割を理解するとともに、豊かな人生の創造に向けて、先導的な役割を果たすことができるよう生涯教育の推進の在り方について実践的に理解する。

【授業概要】

高齢化社会が加速度的に進展することが予測される中において、生涯学習社会の充実した構築が益々重要となっている。こうしたことを背景に、生涯教育の現代的な意義と役割について深く考察し理解するとともに、音楽文化・造形文化・スポーツ文化の各分野における具体的な事例を通して、生涯教育の現状と課題を把握し、今後の生涯教育の在り方について総合的に展望する。（共同担当、全 15 回／1～4 回及び 14・15 回目は担当教員全員、5～13 回は分担担当）

【授業計画】

- 第 1 回 高齢化社会及び生涯教育（学習）の意義・役割に関する学習経験や実践等を踏まえて、学習課題を明確にする。（オリエンテーション含む）
- 第 2 回 我が国及び諸外国の高齢化社会の現状と課題について資料を基に理解する。社会における人間文化全体を貫く倫理観や価値観について考察し明らかにする。
- 第 3 回 生涯教育の理念や意義、我が国全体の生涯教育に係る施策の現状と課題について諸答申や資料を基に明らかにする。
- 第 4 回 地方自治体における生涯教育推進の現状について、資料及び具体例を通して把握するとともに地域特性に応じた課題について明らかにする。
- 第 5 回 生涯教育における音楽文化の現状について、ジャンルの淘汰と多様化、また融合をくり返す今日の音楽文化の状況を、文化活動の推進と生涯学習の支援の観点から把握する。
- 第 6 回 生涯教育における音楽文化の課題について、文化は「流れ」ではなく、積極的に「創造」するものであるという考え方に立ち、今日の音楽文化の状況をふまえて、その課題を追究する。
- 第 7 回 見据えた音楽文化の課題に対する考え方を深め、当事者として文化を観る意識を持ち、変革を試みる視点をとおして、これからの音楽文化を展望する。
- 第 8 回 生涯教育における造形芸術文化の現状について、学校教育における造形美術教育を一つの切り口に各種資料などと比較しながら、討議を通して分析する。
- 第 9 回 前回の現状の考察を通して、生涯教育と高齢化社会の視点から、造形芸術文化の課題について討議を通して考察し明らかにする。
- 第 10 回 高齢化社会における生涯教育としての造形芸術文化の振興・普及・発展について、地域の活性化や文化芸術の振興の観点から討議を通して展望する。
- 第 11 回 スポーツ文化の現状について、国レベル、地方自治体レベルの各種資料を基に把握するとともに、生涯教育の視点での討議を通して分析する。
- 第 12 回 高齢化社会と生涯教育の視点から、スポーツ文化の課題について、討議を通して考察し明らかにする。
- 第 13 回 高齢化社会における生涯教育としてのスポーツ文化の推進について、地域活性化の観点から討議を通して展望する。
- 第 14 回 生涯教育特論の講義を総括し、ふりかえりながら質疑応答しながらグループ単位での討議を行い、その考察結果を全体に発表する。
- 第 15 回 生涯教育特論についての最終試験を行う。生涯教育という視点から、各音楽文化、造形文化スポーツ文化の視点も入れながら、現在の現状理解と把握、そこからどのような課題意識があるのかそしてこれからの展望の 3 つの観点で試験を行う。

【テキスト】

各回毎に必要な資料等は、印刷して配布または準備を指示する。

【評価の観点・方法】

受講態度、出席、レポート、最終試験の結果から総合して判断する。

最終試験においては、この講義において「生涯教育（学習）に関する理解」がどれほどなされているのか、また「我が国におけるこれからの生涯教育（学習）のあり方」に関する自分なりの考究と具体的な方策などを具体的な評価の観点とする。

1. 「総合連携科目」がめざすもの

現代文化が、文化のジャンルを超えて融合し多様性を深めていることに鑑み、文化創造専攻の学生を対象に、人間文化に関する総合的な広い視野を確保し、又は文化理解の前提として人間心理に対する理解を涵養するものである。

2. 履修の仕組み等

学生は、「総合連携科目」を1科目2単位以上履修するものとする。

文化創造専攻の他分野又は臨床心理学専攻で開講する「総合連携科目」から1科目を選択して履修するものとする。総合連携科目は、文化創造専攻においては他分野の学生が履修することを前提に、また、臨床心理学専攻においては、文化創造専攻の学生も履修することを前提とした内容とする。

- ① 芸術・スポーツ分野の学生が、心理学・こころのケアに関する科目の履修によって、より効果の上がる文化活動の企画が可能になることから、臨床心理学専攻では、こころの発達や犯罪・矯正の心理、並びに基礎となる大脳生理学など、こころの動きの機序等に関する科目を中心に総合連携科目群として開講する。
- ② 文化創造専攻の音楽芸術、造形芸術及びスポーツ科学の各分野が相互に連携し、授業を開放することによって、芸術文化・スポーツ分野の他分野との関わり又は学習の相乗効果を深めるため、総合連携科目群を開講する。

各専攻、分野における総合連携科目（授業科目）は以下のとおりである。

○ 臨床心理学専攻が開講する総合連携科目

文化理解の根底となる人間心理の機序のメカニズムや人間的発達に関する理解を深めるための授業科目群を総合連携科目とする。

- ・ 発達心理学特論
- ・ 大脳生理学特論
- ・ 犯罪・矯正心理学特論

○ 文化創造専攻が開講する総合連携科目

【音楽芸術分野】

文化活動の企画・運営に関する能力を涵養するために音楽芸術活動の一端に触れて、文化に関する視野の拡大と総合性についての理解を深めることに資する授業科目群を総合連携科目とする。

- ・ 音楽活動支援論
- ・ 室内楽演習（声楽）
- ・ 総合舞台芸術演習（オペラ）

【造形芸術分野】

伝統文化や文化政策、文化活動の基盤となる街の在り方（地域デザイン）を学ぶことによって、文化の基盤に関する理解を涵養する授業科目群を総合連携科目とする。

- ・ 伝統文化論
- ・ 地域デザイン特論
- ・ 芸術と文化政策

【スポーツ科学分野】

文化としてのスポーツ、そのスポーツの普及の基礎となるスポーツ政策、現代社会におけるスポーツの現状と課題について理解を深め、文化の基盤の一つとしてのスポーツに関する理解を涵養する授業科目群を総合連携科目とする。

- ・ 現代スポーツ論
- ・ スポーツ政策論
- ・ 地域スポーツ文化論

文化創造専攻の文化コーディネート実習

地域教育文化研究科文化創造専攻の目的である芸術文化・スポーツ振興の中心的担い手の養成を目指して、各種活動の企画・運営（コーディネート・マネジメント）能力を涵養するためには、大学での理論的学習と接続する実践的学習が不可欠である。「文化コーディネート実習」では、この目的の達成のため、文化創造専攻の各分野に対応する企業・団体・事業所等（以下「連携協力事業所等」という）において、芸術文化・スポーツ振興のための実践的な学習を行う。（実習施設使用承諾書（抜粋）添付）

- 事前指導：5月初旬に大学院指導教員と学生が個別に実習研究計画書を作成し、その後、それを基に事前指導を行う。
- 事後指導：実習の成果を発表する機会を設定し、課題の明確化について事後指導を実施する。
- 実習時間：90時間

以下に分野ごとに文化コーディネート実習について説明する。

【音楽芸術分野】

授業の到達目標

山形交響楽団、財団法人山形県生涯学習文化財団が設置する「文翔館」、及び男声合唱団・コールマイゼンの事務局における事業の企画・運営の補助業務を通じて、地域における音楽文化振興の意義を具体的に把握するとともに、地域における音楽文化活動の発展に寄与し得るコーディネートや、鑑賞者のニーズに応える演奏活動への企画・推進の能力を修得することをねらいとする。

なお、これら「プロのオーケストラ、文化財団、アマチュアの音楽演奏団体」という趣旨目的の異なる三施設において、それぞれ多様な視点から研修、企画、練習、演奏会等の実習を展開し、音楽芸術文化事業に貢献できる能力を修得させるものとする。

また、これらで得られたコーディネート能力を用い、山形大学附属校・園で企画・実践の実習を行い到達度を検証する。

授業概要

授業概要

- ① 社団法人 山形交響楽団の事業（楽団の運営・演奏活動）に参画し、運営及び演奏に係わる準備や後片付け等の業務のアシスタントを行う。
- ② 従来のようにステージの表面からの活動を捉えるばかりではなく、裏面における演奏活動を支えるための業務すべてを体験し、今日の音楽の文化活動に課せられている課題と改善すべき課題を把握する。
- ③ 地域市民の音楽に対する関心やニーズを知り、その特性を捉えた啓発活動や地域文化の振興について実践する。

- ④ ③の項目を達成するために、当面は山形大学附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校におけるアウトリーチ活動の企画・立案及び、演奏会の実施等を通じてこれを体験させ、その成果と課題及び反省点と評価について検証する。

授業計画

【実習施設】

- ・ 社団法人 山形交響楽協会及び、山形大学附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校とする。

【実習施設との連携】

- ・ 実習施設との連携を図るために、山形交響楽協会および山形大学附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の代表者および受け入れ担当者と、大学側の担当者教員による「文化コーディネート実習運営協議会」を年に2回、実習前と実習後に開催する。
- ・ 実習前の実習運営協議会は、主に実習計画・実習内容・評価等の実習の概要についても協議し、実習後の実習運営協議会では実習の反省、成績評価と次年度の計画について協議する。
- ・ 山形交響楽協会および山形大学附属学校・園の代表者あるいは受け入れの担当者と、大学側の担当者教員による「文化コーディネート実習運営協議会」では、実習時間、実習内容、実施方法、評価方法、その他実習に係わる全般の具体的事項を協議・決定する。
- ・ アウトリーチ活動については、各附属学校・園における年間指導計画に合わせて、十分協議のうえ日程の決定を行う。

【実習時間と配分】

- ・ 時間数 90時間（実習72時間、事前・中間・事後指導8時間、練習・アウトリーチ10時間）
- ・ 内訳 ①事前指導（2時間）
諸注意・心構えについて =大学側の担当教員
事業の概要と補助としての職務分担について =交響楽団事務局担当
- ②山形交響楽団での実習（1日8時間として9日間）
運営書業務の補助、運搬、演奏会セッティング等に取り組む
演奏会場での聞き取りにより聴衆のニーズについて意見の収集
演奏実習の企画・立案
- ③中間指導（2時間） 楽団実習の反省と企画・立案の完成提出
- ④演奏のための練習（4時間）
4時間の練習のうち、1時間は教員による指導とする
- ⑤山形大学附属学校・園におけるアウトリーチ（6時間）
附属学校・園のうち、アウトリーチは2ヶ所を予定する
- ⑥事後指導（4時間）
自己評価・全体発表（うち2時間）、
文化コーディネート実習運営協議会より講評（うち2時間）
- ・ なお、実習の実施期間を連続した期間とするか、分けて実施するかは、実習委員会および実習生との協議による。

【実習内容】

○ストレートマスターの場合

- ・ 事業における運營業務等の補助業務をとおして、音楽文化事業の振興の実態を把握するとともに、鑑賞対象者のニーズの調査をとおして、地域における音楽文化事業の社会的な役割と意義および課題を認識する。
- ・ 実習の終了後に自身やグループで取り組むことのできる音楽普及活動について、課題解決に向けた演奏活動による具体策を企画・立案する。
- ・ 担当事務局や社会人院生と協議しながら、企画の修正改善を行う。
- ・ 企画・立案した音楽普及活動を実習の終了後に、アウトリーチとして附属学校・園における演奏会として取り組む。
- ・ 附属学校・園におけるアウトリーチの実施後に、その成果について検討する。

○社会人院生の場合

- ・ 自身の経験と知識・技能を基盤に、音楽文化事業の振興の実態を把握するとともに、鑑賞対象者のニーズの調査をとおして、地域における音楽文化事業の社会的な役割と意義および課題を認識する。
- ・ 自身の経験や専門性および活動基盤をもとに、課題解決に向けた演奏プログラムを企画・立案する。その際、ストレートマスターと共同作業を行うこととなるが、ストレートマスターに対し、適切な助言・支援等を行うよう心がけさせる。
- ・ これをもとに実習終了後に、アウトリーチとして附属学校・園における演奏会に取り組むとともに、鑑賞対象者のニーズに応えうるプログラムと、なおかつ自身やグループで取り組める音楽普及活動について具体策を盛り込む。
- ・ 企画立案したアウトリーチについては、実習の終了後に附属学校・園における演奏会を以て取り組む。
- ・ 附属学校・園におけるアウトリーチの実施後に、その成果について検討する。

テキスト

必要な資料については、適宜作成して配布する。

参考書

「ベルリン・フィルとの四半世紀」（音楽之友社）カール・ライスター著

「感じて動く」（ポプラ社）佐渡裕著

評価の観点・方法

以下の観点から、文化コーディネーター実習委員会において、評価規準及び評価項目を策定する。

○ストレートマスターの場合

- ・ 事業の運營業務の補助業務をとおして、①音楽文化事業の振興のための企画・立案の作業が総体として捉えることができたか。②演奏者を支えるための準備、すなわちステージビルディングのセッティング作業、ライブラリアンの作業等が重要な作業であることが認識できたか。
- ・ 鑑賞対象者のニーズ及び、地域における音楽文化事業の社会的な役割と意義ならびに課題を認識することができたか。
- ・ 附属学校・園における音楽普及活動について、課題解決に向けた演奏会として適

切に企画・立案されていたか。

- ・ 演奏会後の自己評価およびその成果と課題について適切に検討され、自己評価も適切であったか。

○社会人院生の場合

- ・ 事業の運營業務の補助業務をとおして、自身の経験や専門性および活動基盤をもとに、①音楽文化事業の振興のための企画・立案の作業が総体として捉えることができたか。②演奏者を支えるための準備、すなわちステージビルディングのセッティング作業、ライブラリアンの作業等の重要性を認識できたか。
- ・ 鑑賞対象者のニーズ及び、地域における音楽文化事業の社会的な役割と意義と課題を認識することができたか。
- ・ 附属学校・園における音楽普及活動について、課題解決に向けた演奏会として適切に企画・立案されていたか。
- ・ 演奏会後の自己評価およびその成果と課題について適切に検討され、自己評価も適切であったか。
- ・ ストレートマスターとの共同作業において、自身の経験と知識・技能をもとに、適切な助言・支援等を行うことができたか。

○総合的な評価

文化コーディネート実習委員会において、以下の項目について各個人の評価を行う。

- ・ 山形交響楽団の事業への参画については、積極的かつ真摯に取り組んでいたか。
- ・ 周囲の状況を適切に判断して行動し、周囲の人々と協力して作業をしたか。
- ・ それぞれの取り組みについて、常にその意義と課題を十分に把握しながら行動していたか。
- ・ アウトリーチ活動における演奏内容や、企画・立案については適切であったか。なお、この項目については、鑑賞する側にいた教師からの評価及び、児童・生徒の反応等についても結果を導き出してこれに加味する。

○評価方法

- ・ 大学院の担当教員と担当事務局や附属学校・園のアウトリーチ受け入れの担当教員とが緊密に連携し、評価規準および評価の各項目に照らし合わせて、その達成度について評価を行う。

【造形芸術分野】

授業の到達目標

山形美術館における事業の企画・運營業務の補助を通じて、地域における芸術文化振興の意義を具体的に把握するとともに、地域における芸術文化活動の発展に寄与し得るコーディネートやアート・マネジメント能力の修得をねらいとする。

授業概要

- ・ 山形美術館の事業（特別展・常設展の企画・運営）に参画し、契約から予算執行に至る事業全般のアシスタントを行う。
- ・ 利用者の価値構造に基づいたミュージアムの評価を行い、地域における芸術文化に対する市民のニーズや、それに基づく美術館の課題を明確にする。

- ・ 上記の評価や課題調査を踏まえ、地域のニーズや特性をふまえた教育普及活動の企画運営を行う。

授業計画

実習施設

財団法人 山形美術館（連携協力事業所）

実習施設との連携

- ・ 山形美術館の代表者および学芸担当者と、地域教育文化研究科文化創造専攻の代表者および実習担当教員による「文化コーディネーター実習運営協議会」を年2回、実習前と実習後に開催する。
- ・ 実習前の実習運営協議会は、主に実習計画・実習内容・評価等の実習の概要について、実習後の実習運営協議会では実習の反省、成績評価と次年度の計画等について協議する。
- ・ 山形美術館の学芸担当者・実習担当者と担当教員による「文化コーディネーター実習（造形）実施委員会」では、実習時間、実習内容、実施方法、評価項目・基準、評価方法、その他実習全般の具体的事項を協議・決定する。

実習時間と配分 90時間（実習72時間、事前・中間・事後指導8時間、練習・アウトリーチ10時間）

なお、実習実施期日を連続した期間とするか、週1回など定期的なものとするかは実習委員会および実習生との協議による。

- (1) 全期間を通じて、特別展・常設展を中心とする山形美術館の事業の補助業務に携わる。
- (2) 利用者や地域のニーズ分析に基づいた教育普及活動を行う。
 - ・ 第1期（8時間×5日間、40時間）利用者のアンケートや聞き取り調査による地域の美術館や芸術文化活動に対するニーズ調査
 - ・ 第2期（8時間×5日間、40時間）利用者の価値構造に立脚したミュージアム評価と課題の分析
 - ・ 第3期（8時間×5日間、40時間）課題解決に向けての教育普及活動の企画立案
 - ・ 第4期（8時間×5日間、40時間）企画・立案に基づく普及活動の実践・試行

実習の具体的内容

○ストレートマスター

- ・ 美術館の事業の補助業務や利用者のニーズ調査や美術館の評価をとおして、芸術文化の社会的役割を確認するとともに、その課題を明確にする。
- ・ 課題解決に向けた教育普及活動の具体策を企画立案する。
- ・ 担当学芸員や社会人院生と討議しながら、企画の修正、改善を行う。
- ・ 企画立案した教育普及活動を実践するとともに、その成果について検討する。

○社会人院生

- ・ 自身の経験と知識技能を基盤に、美術館事業の補助業務および利用者のニーズ調査をとおして地域における芸術文化振興の意義と課題を再確認する。
- ・ 地域のニーズとともに、各自の経験や専門性、問題意識と課題に応じた教育

普及活動の具体案を企画立案する。実技系のワークショップ、対象者の特性に応じたギャラリートークの研究、地域の特性に立脚した美術館内外での小企画展の開催、アーティスト・イン・レジデンスの実施、地域の伝統産業の教育普及、地域の産業や商店街等と連携し、地域振興のねらいを併せ持つ芸術・デザイン系のワークショップなどが考えられる。

- ・ 教育普及活動において、自身の経験や専門性をふまえながら、ストレートマスターと協同作業を行ったり、ストレートマスターに対する助言を行う。
- ・ 企画立案した教育普及活動の実施とその効果の検証を行う。

テキスト

- ・ 必要な資料は配布または準備を指示する。

参考書

新見隆ら著『アートマネジメント』（武蔵野美術大学出版局）

池上淳ら編『文化政策入門』（丸善株式会社）

- ・ ほか適宜紹介する。

評価の観点・方法

評価項目・基準

次の観点から、文化コーディネート実習委員会において評価項目及び基準を策定する。

○ストレートマスター

「美術館の展覧会事業（常設展・特別展）の補助」項目

- ・ 契約から予算執行に至る美術館の展覧会事業の総体について理解できたか。
- ・ 事業運営の補助業務が有効になされたか。

「ニーズ調査とミュージアム評価」項目

- ・ アンケートや聞き取りによる利用者のニーズ調査をもとに、ミュージアム評価を適切に実施できたか。
- ・ ミュージアム評価をもとに、地域のニーズと美術館の特性を勘案した課題の抽出をなし得たか

「教育普及活動の企画・立案・実施」項目

- ・ ミュージアム評価をもとに、課題解決に向けた有効な教育普及活動の企画立案がなされたか。
- ・ 企画が適切に実施され、その効果の検証が適切になされたか。

○社会人院生

「美術館の展覧会事業（常設展・特別展）の補助」項目

- ・ 契約から予算執行に至る美術館の展覧会事業の総体について理解できたか。
- ・ 自身の経験や専門性が事業運営の補助業務に有効に生かされたか。

「ニーズ調査とミュージアム評価」項目

- ・ アンケートや聞き取りによる利用者のニーズ調査をもとに、ミュージアム評価を適切に実施できたか。

・ 「教育普及活動の企画・立案・実施」項目

- ・ 企画・実施された教育普及活動において、自身の経験や専門性が有効に生か

されたか。

企画が適切に実施され、その効果の検証が適切になされたか。

評価方法

大学院の担当教員と美術館の担当学芸員とが緊密に連携し、評価項目・基準に照らし合わせてその達成度について評価を行う。ミュージアム評価をもとに、自身の経験や専門性をふまえた適切な課題の抽出がなされたか

【スポーツ科学分野】

授業の到達目標

山形県総合運動都市公園公社や山形県体育協会関連施設を通じて、社会におけるスポーツ活動の役割を実践的に理解するとともに、スポーツ施設・団体・スポーツクラブ等の管理・運営やスポーツイベント等の企画・運営に関するマネジメントやコーディネート能力を修得することをねらいとする。

授業概要

山形県総合運動都市公園公社や山形県体育協会関連施設等の事業（各種スポーツ教室運営、指導者養成講習会開催、練習会場の確保の支援、ふれあい事業）に参画し、体験型実習を行うことにより、地域社会に還元できる能力を身につけることをねらいとする。

社会人入学者については、経験を生かしながら指導的立場で実習に臨み、より高い次元での能力を身につけられるようにする。

担当教員は、担当者と連携をとりながら巡回指導を実施する。

実習期間は15日間とし、前後にガイダンスおよびまとめの時間を設ける。

実習時間

90時間（実習72時間、事前・中間・事後指導8時間、練習・アウトリーチ10時間）

授業計画

実習前ガイダンス（実習への取り組み、関わり方。課題等の作成）

1. スポーツ施設における実習 5日間
（運動公園公社、商業スポーツ施設・クラブ等）
 - 1日目 施設の管理・運営の実態把握
 - 2日目 日常のスポーツプログラムの運営・管理方法の学習
 - 3日目 大会・イベント等への企画・運営について参加協力実習
 - 4日目 大会・イベント等への企画・運営について参加協力実習
 - 5日目 大会・イベント等への企画・運営について参加協力実習
2. スポーツ組織・団体（県・市体育協会、県・市のスポーツ行政担当課等）における実習 5日間
 - 1日目 組織・団体の管理・運営の実態把握
 - 2日目 組織・団体の行政との関わりについての理解
 - 3日目 組織・団体の役割や各種関連機関との関わりについての理解
 - 4日目 関連団体の大会・イベントへの参加協力実習
 - 5日目 関連団体の大会・イベントへの参加協力実習
3. 総合型地域スポーツクラブ、広域スポーツセンターにおける実習 5日間
 - 1日目 スポーツクラブやセンターの運営・管理方法の学習
 - 2日目 各種プログラムの指導体制や指導実態についての把握
 - 3日目 各種スポーツプログラムの企画・運営について参加協力実習
 - 4日目 関連大会・イベントへの協力参加実習

5日目 関連大会・イベントへの協力参加実習
まとめ（報告書作成・発表）

評価の観点・方法

出席、受講状況、実際場面における行動力、レポート課題等により総合的に評価する。

教育学研究科と地域教育文化研究科臨床心理学専攻の授業科目について

臨床心理学専攻においては、修了生の進路先として最も多いスクールカウンセラーとしての資質を高める観点から、新たに「学校心理学特論」を設け、学校の教師が行う日常的なかかわりのあり方を検討し、予防的・開発的アプローチについてアドバイスできる知識や技術を身につけることができるようにする。さらに、「学校臨床心理学特論」を新たに設けて、学校心理学の心理教育的援助サービスの枠組み、特に三次的援助サービスを中心に学習を進め、校内チームだけでなく子どもの保護者を含めたチーム援助の進め方を体験することができるようにする。こうして、学校教育についての理解と、教師と連携したスクールカウンセリングの進め方を学ぶことができる科目を充実する。

次に、精神科病院に進路を選ぶ修了生が、その臨床実務に対応できるように、精神科医療において使われることが多いロールシャッハ検査等の投映法の理論と実際を体験的に学ぶことができる「投映法特論」を新たに設けた。また、「大脳生理学特論」を設けて、臨床心理学分野に関わる諸問題を、大脳生理学（神経科学、神経心理学等を含む）の観点から学ぶことができるようにする。こうして、病院等における臨床心理業務に対応できる力を充実させることとする。

さらに、臨床心理や学校教育の現場においては、クライアントや学生生徒の様々な問題行動、特にぐ犯行為や触法行為に直面することが多い。そこで、「犯罪矯正心理学特論」を設け、これらの問題解決を模索していく上で必要な犯罪・非行に関する心理学的な基礎知識と矯正処遇に関する知識を学ぶことができるようにする。

また、「臨床心理学特論B」においては、臨床心理の倫理に関する内容を充実させて、地域の臨床業務における倫理的で実践的な力をつけることができるようにする。

		教育学研究科	単位数	移行	地域教育文化研究科	単位数
必修科目	（臨床心理学に限る） 臨床心理学専攻	臨床心理学特論A	2		臨床心理学特論A	2
		臨床心理学特論B	2		臨床心理学特論B	2
		臨床心理面接特論A	2		臨床心理面接特論A	2
		臨床心理面接特論B	2		臨床心理面接特論B	2
		臨床心理査定演習A	2		臨床心理査定演習A	2
		臨床心理査定演習B	2		臨床心理査定演習B	2
		臨床心理実習 初級	2		臨床心理実習 初級	2
		臨床心理実習 上級	2		臨床心理実習 上級	2
選択科目	A群	心理統計法特論	2	名称変更	心理学特別演習(統計)	2
		心理学研究法特論	2	新設→	心理学研究法特論	2
	B群	発達心理学特論	2	変更→ 新設→ 新設→	心理学特別演習(実験)	2
		教育心理学特論	2		発達心理学特論	2
		人格心理学特論	2		教育心理学特論	2
			2		学校心理学特論	2
	C群	家族心理学特論	2	変更→	大脳生理学特論	2
		集団力学特論	2		行動心理学特論	2
	D群	精神医学特論	2		家族心理学特論	2
		障害児心理学特論	2		犯罪・矯正心理学特論	2
	E群	心理療法特論	2	新設→ 新設→ 変更→	精神医学特論	2
		投映法特論	2		障害児心理学特論	2
		2	心理療法特論		2	
		2	投映法特論		2	
必修科目	課題研究	コミュニティアプローチ特論	2		学校臨床心理学特論	2
		課題研究	4		学校カウンセリング演習	2
				変更→	コミュニティ・アプローチ演習	2
					課題研究	4

臨床心理学専攻：【ストレートマスター 履修モデル】

スクールカウンセラーを希望するストレートマスター学生の履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	必修科目 (3科目, 6単位) ・ 臨床心理学特論 A ・ 臨床心理面接特論 A ・ 臨床心理査定演習 A						必修科目 (3科目, 6単位) ・ 臨床心理学特論 B ・ 臨床心理面接特論 B ・ 臨床心理査定演習 B					
	選択科目 (3科目, 6単位) ・ 心理学特別演習(統計) ・ 学校心理学特論 ・ 障害児心理学特論						選択科目 (2科目, 4単位) ・ 家族心理学特論 ・ 学校臨床心理学特論					
	必修科目 (実習 1科目, 2単位 : 通年) ・ 臨床心理実習 (初級) : 模擬実習と教職研究総合センター心理教育相談室実習で 90 時間											
	必修科目 (課題研究 1科目, 2単位 : 通年) 臨床心理学的なテーマで研究を行い、中間構想発表会を行う											
2 年 次	必修科目 (実習 1科目, 2単位 : 通年) ・ 臨床心理実習 (上級) : 教職研究総合センター心理教育相談室における実習 90 時間											
	必修科目 (実習 1科目, 2単位 : 通年) ・ 臨床心理実習 (上級) : 外部の実習協力機関における実習 90 時間											
	必修科目 (課題研究 1科目 : 通年) 臨床心理学的な研究を行い、論文発表会を行う											

1 年次 (26 単位 = 講義・演習 22 単位 + 実習 2 単位 + 課題研究 2 単位)

2 年次 (4 単位 = 実習 2 単位 + 課題研究 2 単位)

臨床心理学専攻：【社会人学生 履修モデル】

児童相談所の心理判定員や児童養護施設の心理療法担当者を希望する社会人学生の履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	必修科目 (3科目, 6単位) ・ 臨床心理学特論 A ・ 臨床心理面接特論 A ・ 臨床心理査定演習 A						必修科目 (3科目, 6単位) ・ 臨床心理学特論 B ・ 臨床心理面接特論 B ・ 臨床心理査定演習 B					
	選択科目 (3科目, 6単位) ・ 心理学研究法特論 ・ 発達心理学特論 ・ 障害児心理学特論			選択科目：集中講義 (2科目, 4単位) ・ 心理療法特論 ・ 犯罪矯正心理学特論								
	必修科目 (実習1科目, 2単位：通年) ・ 臨床心理実習 (初級)：模擬実習と教職研究総合センター心理教育相談室実習で 90 時間											
	必修科目 (課題研究1科目, 2単位：通年) 臨床心理学的なテーマで研究を行い、中間構想発表会を行う											
	必修科目 (実習1科目, 2単位：通年) ・ 臨床心理実習 (上級)：教職研究総合センター心理教育相談室における実習 90 時間											
2 年 次	必修科目 (実習1科目, 2単位：通年) ・ 臨床心理実習 (上級)：外部の実習協力機関における実習 90 時間											
	必修科目 (課題研究1科目：通年) 臨床心理学的な研究を行い、論文発表会を行う											
	(This row is empty in the original image)											

1年次 (26 単位=講義・演習単位 22 単位+実習 2 単位+課題研究 2 単位)

2年次 (4 単位=実習 2 単位+課題研究 2 単位)

音楽芸術分野：【ストレートマスター履修例】

高度な技量を有する声楽指導者・声楽家を目指すストレートマスターの例



1年次【22単位＝必修14単位＋選択8単位（分野選択6単位＋総合連携2単位）】

2年次【8単位＝必修8単位】

音楽芸術分野：【社会人学生 履修例】

地域の音楽活動の指導者としてコーディネート能力の強化を目指す社会人学生の例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・生涯教育特論											
	分野必修科目(3科目,6単位) ・音楽表現演習(ピアノ)A ・音楽活動支援論 ・伝統音楽論								分野必修科目(1科目,2単位) ・音楽表現演習(ピアノ)B			
	分野選択科目(1科目,2単位) ・室内楽演習(器楽)A*								分野選択科目(2科目,4単位) ・総合音楽学 ・音楽振興支援論			
	総合連携科目(1科目,2単位) ・地域スポーツ文化論★											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 I											
2 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・文化コーディネート実習(音楽)											
					分野必修科目(1科目,2単位) ・総合舞台芸術実習(オペラ)							オペラ公演
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 II											

1年次【22単位＝必修14単位＋選択8単位（分野選択6単位＋総合連携2単位）】

2年次【8単位＝必修8単位】

造形芸術分野：【ストレートマスター 履修例】

専門性を高め力量をつけたいストレートマスターを対象にした履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・生涯教育特論											
	分野必修科目(4科目,8単位) ・絵画・版画表現演習 ・彫塑・立体表現演習 ・デザイン方法論 ・伝統文化論						分野必修科目(1科目,2単位) ・アートマネジメント論					
	分野選択科目(2科目,4単位) ・デザイン表現演習 ・美学・芸術学特論						分野選択科目(2科目,4単位) ・平面造形演習 ・芸術と文化政策					
	総合連携科目(1科目,2単位) ・音楽活動支援論★											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 I											
2 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・文化コーディネート実習(造形)											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 II											

1年次【24単位＝必修16単位＋選択10単位（分野選択8単位＋総合連携2単位）】

2年次【6単位＝必修6単位】

造形芸術分野：【社会人学生 履修例】

造形芸術を通じて企画・運営の力量をつけたい社会人学生を対象にした履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・生涯教育特論											
	分野必修科目(4科目,8単位) ・絵画・版画表現演習 ・彫塑・立体表現演習 ・デザイン方法論 ・伝統文化論				分野必修科目(1科目,2単位) ・アートマネジメント論							
	分野選択科目(1科目,2単位) ・デザイン表現演習				分野選択科目(2科目,4単位) ・デザインプロジェクト演習 ・芸術と文化政策							
	総合連携科目(1科目,2単位) ・地域スポーツ文化論★											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 I											
2 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・文化コーディネート実習(造形)※				※「文化コーディネート実習」と「デザインマネジメント演習」の授業については、実施時期が重ならないように配慮する。							
	分野選択科目(1科目,2単位) ・デザインマネジメント演習※											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究 II											

1年次【22単位＝必修16単位＋選択8単位（分野選択6単位＋総合連携2単位）】

2年次【8単位＝必修6単位＋選択2単位】

スポーツ科学分野:【ストレートマスター 履修例】

コーディネート能力を兼ね備えたスポーツ指導者を目指すストレートマスター学生の履修例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・生涯教育特論											
	分野必修科目(3科目,6単位) ・現代スポーツ論 ・生涯スポーツ学特論 ・スポーツ政策論											
	分野選択科目(2科目,4単位) ・スポーツメンタルマネジメント論 ・スポーツ工学論				分野選択科目(2科目,4単位) ・生涯ヘルスプロモーション演習 ・生涯スポーツボールゲーム論							
	総合連携科目(1科目,2単位) ・地域デザイン特論★											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究Ⅰ											
2 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・文化コーディネート実習(スポーツ)※											
	分野必修科目(1科目,2単位) ・生涯スポーツマネジメント演習※				※「文化コーディネート実習」と「生涯スポーツマネジメント演習」の授業については、実施時期が重ならないように配慮する。							
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究Ⅱ											

1年次【22単位=必修12単位+選択10単位(分野選択8単位+総合連携2単位)】

2年次【 8単位=必修 8単位】

スポーツ科学分野:【社会人学生 履修例】

スポーツ科学理論の再構築とより高い次元でのコーディネート能力の向上を目指す履修例

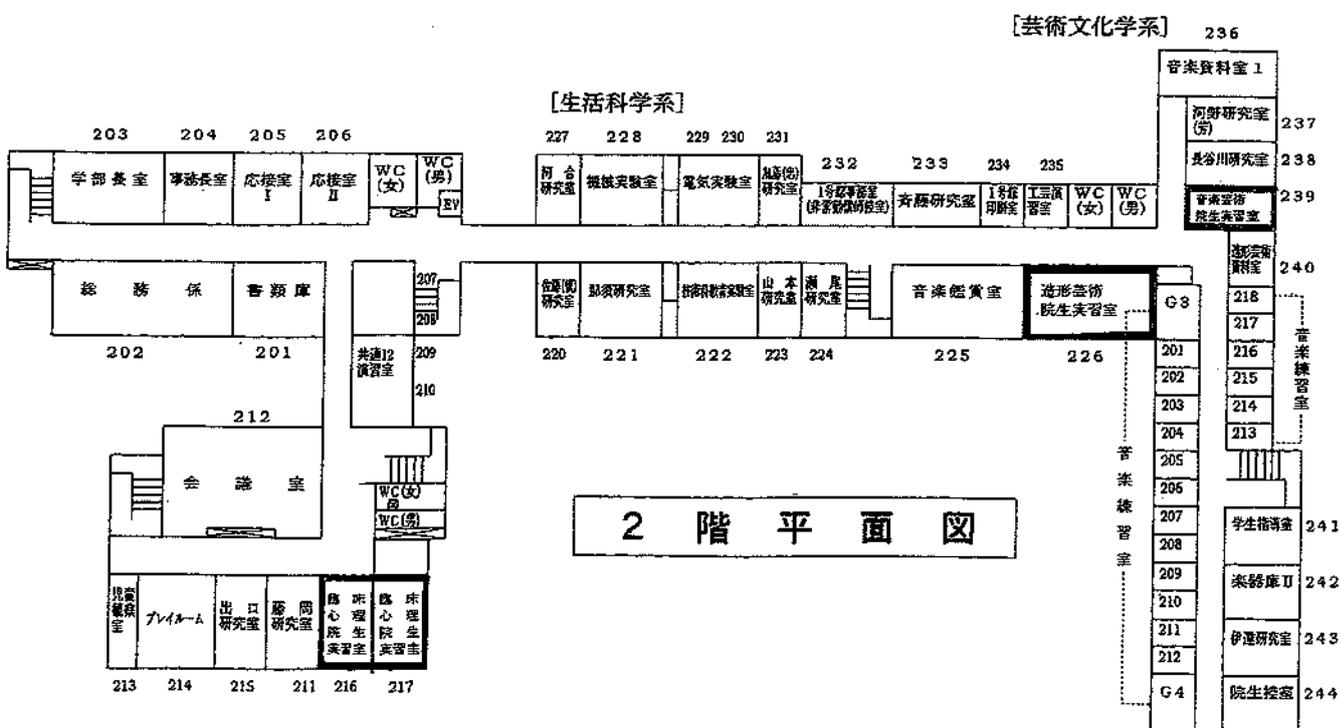
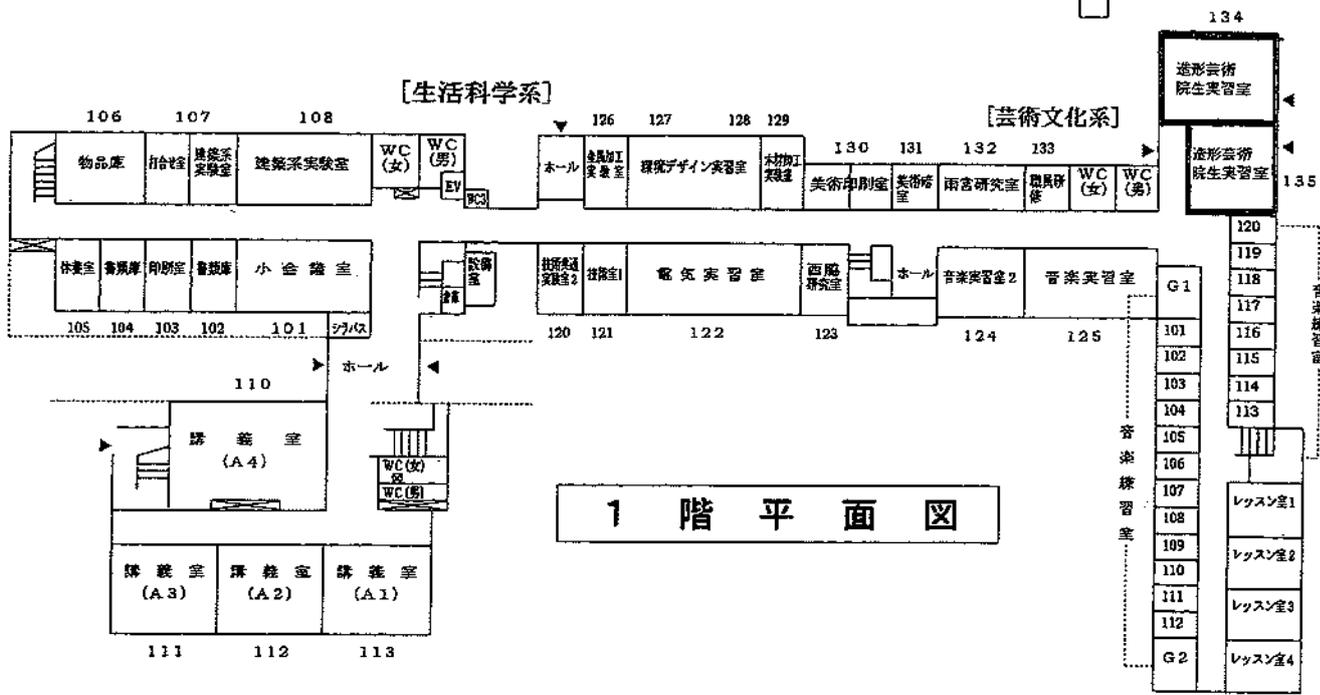
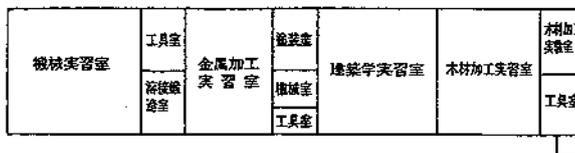
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・生涯教育特論											
	分野必修科目(3科目,6単位) ・現代スポーツ論 ・生涯スポーツ学特論 ・スポーツ政策論											
	分野選択科目(2科目,4単位) ・スポーツ工学論 ・生涯スポーツ生理学								分野選択科目(2科目,4単位) ・スポーツバイオメカニクス演習 ・伝統スポーツ論			
	総合連携科目(1科目,2単位) ・芸術と文化政策★											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究Ⅰ											
2 年 次	専攻必修科目(1科目,2単位) ・文化コーディネート実習(スポーツ)											
	分野必修科目(1科目,2単位) ・生涯スポーツマネジメント演習											
	専攻必修科目(1科目,4単位) 特別研究Ⅱ											

1年次【22単位=必修12単位+選択10単位(分野選択8単位+総合連携2単位)】

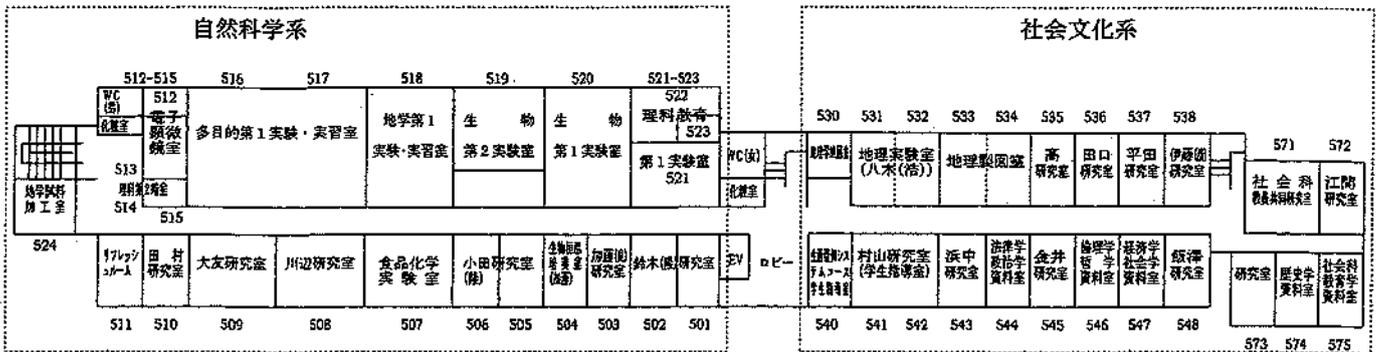
2年次【8単位=必修8単位】

地域教育文化学部 1号館配置図

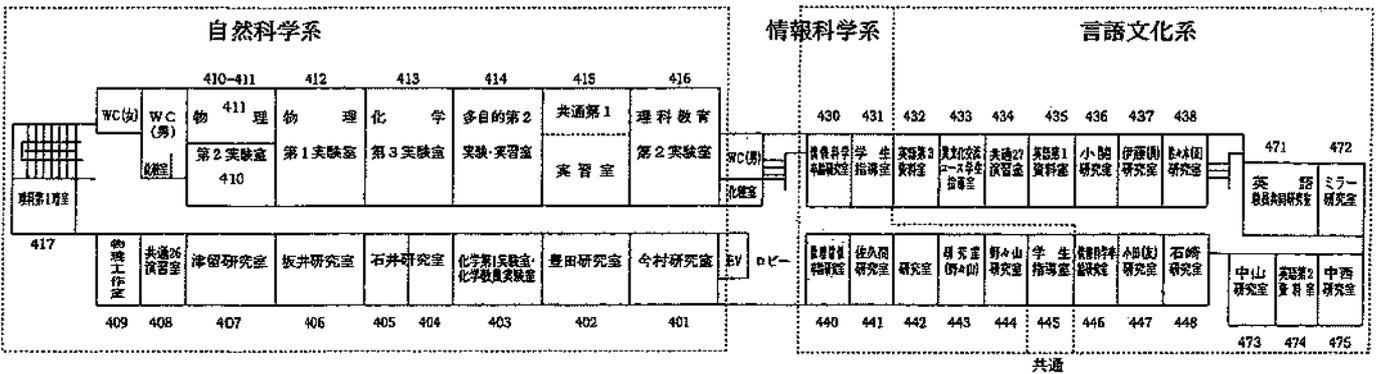
(実習工場)



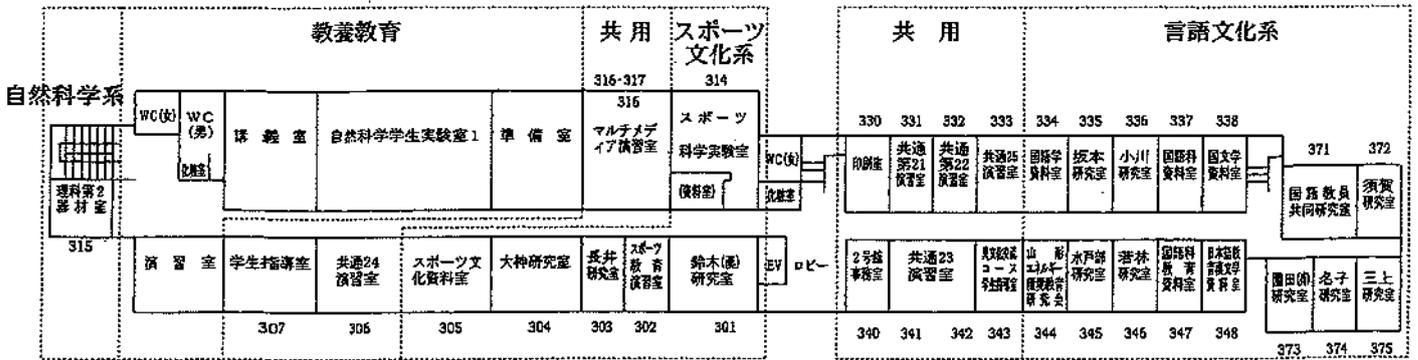
地域教育文化学部 2号館配置図



5階平面図

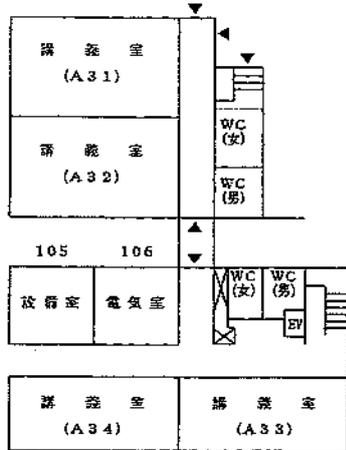


4階平面図

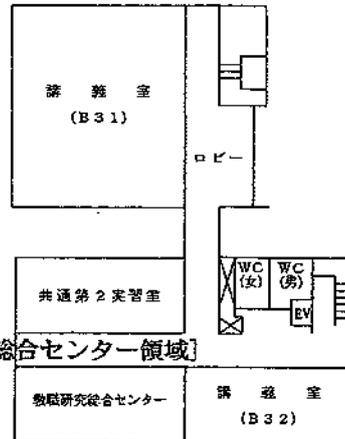


3階平面図

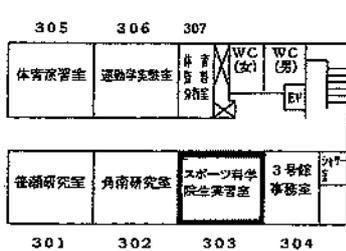
地域教育文化学部 3号館配置図



1階平面図

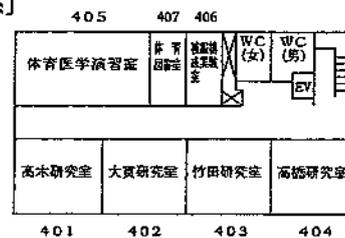


2階平面図

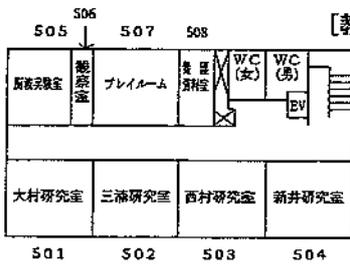


3階平面図

[スポーツ文化系]

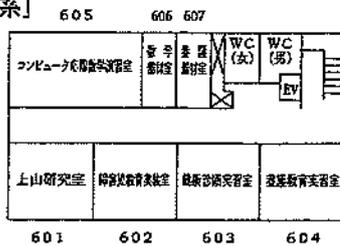


4階平面図



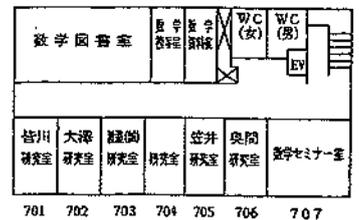
5階平面図

[教育科学系]



6階平面図

[自然科学系]

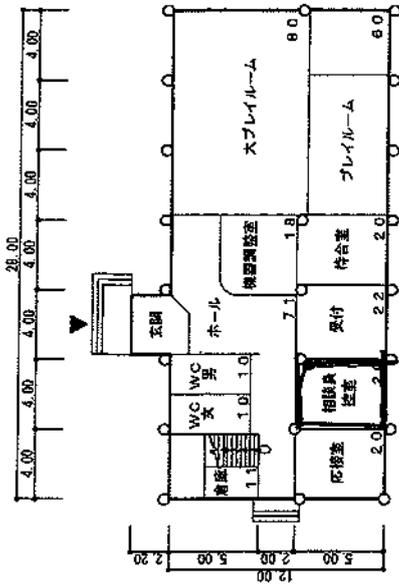
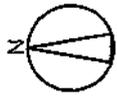


7階平面図

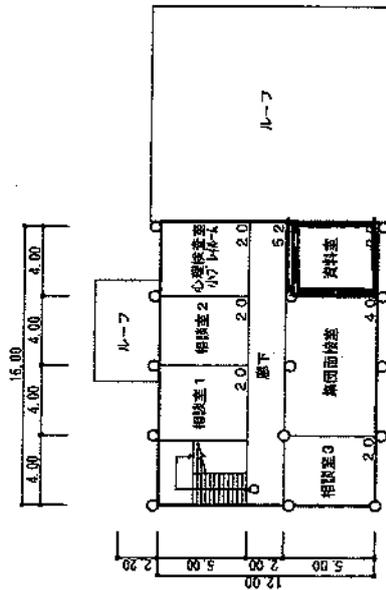
棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0144	山形大学	006	松液	039

山形大学教職研究総合センター 心理教育相談室



1階 S=1/4.00 34.4㎡



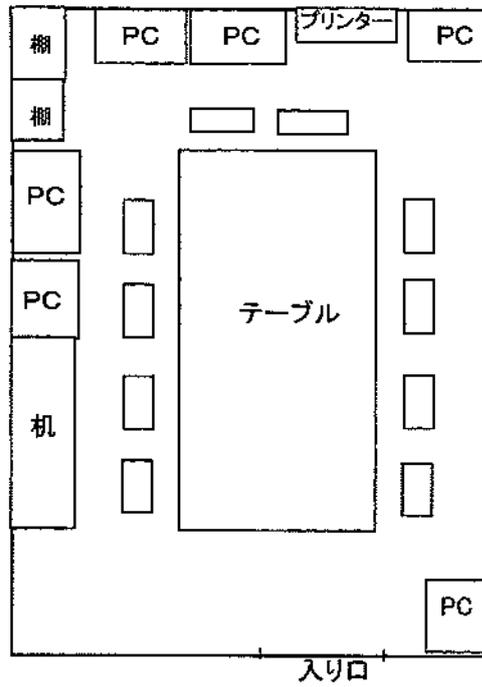
2階 S=1/4.00 19.2㎡

棟名	種別	建築年	構造階数	面積	区分		面積
					番号	色区分	
教職研究総合センター (心理教育相談室)		1984	R2	01	大学附属・研究施設		536
整理番号							0 - 31 -

(凡例)

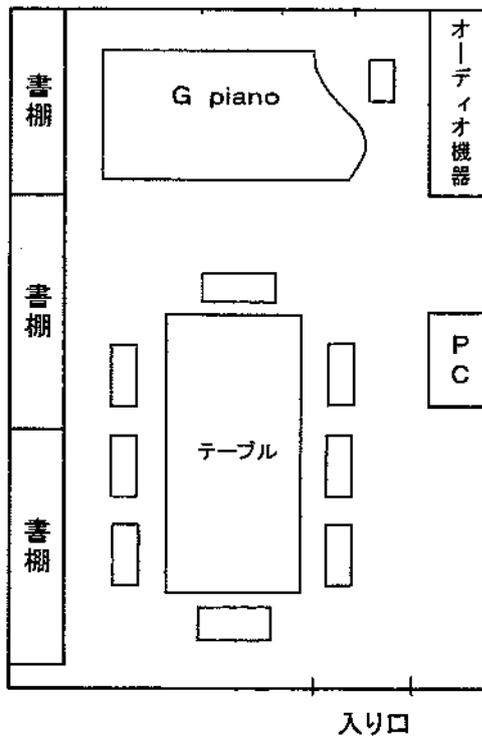
臨床心理分野院生実習室

地域教育文化学部1号館 2F (215)



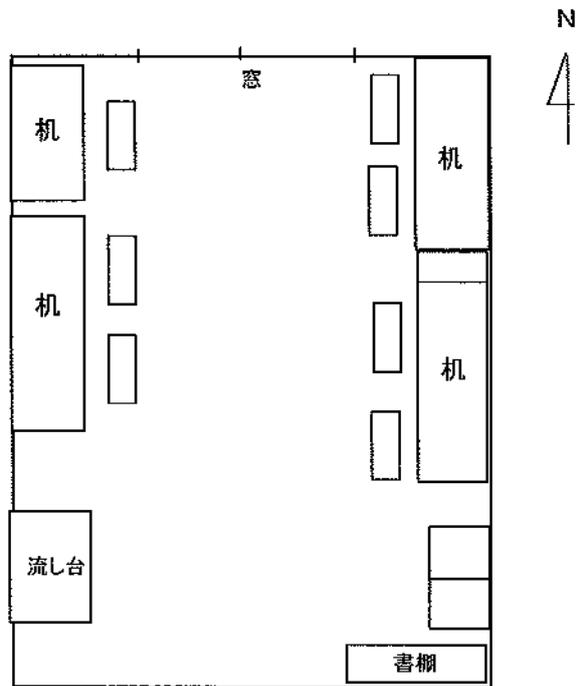
音楽芸術分野院生実習室

地域教育文化学部 音楽棟2F(239)



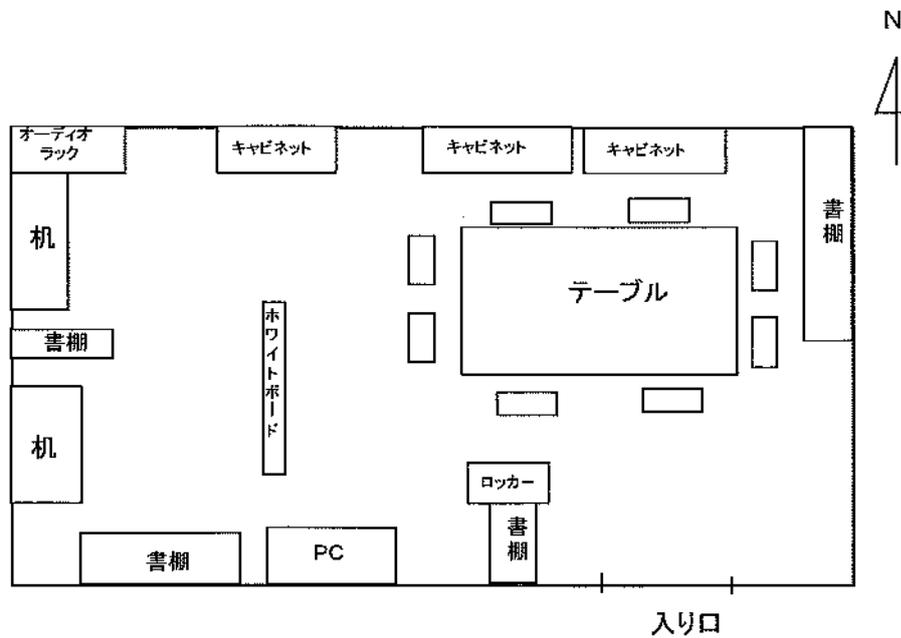
美術芸術分野院生実習室

地域教育文化学部 音美棟3F(338)

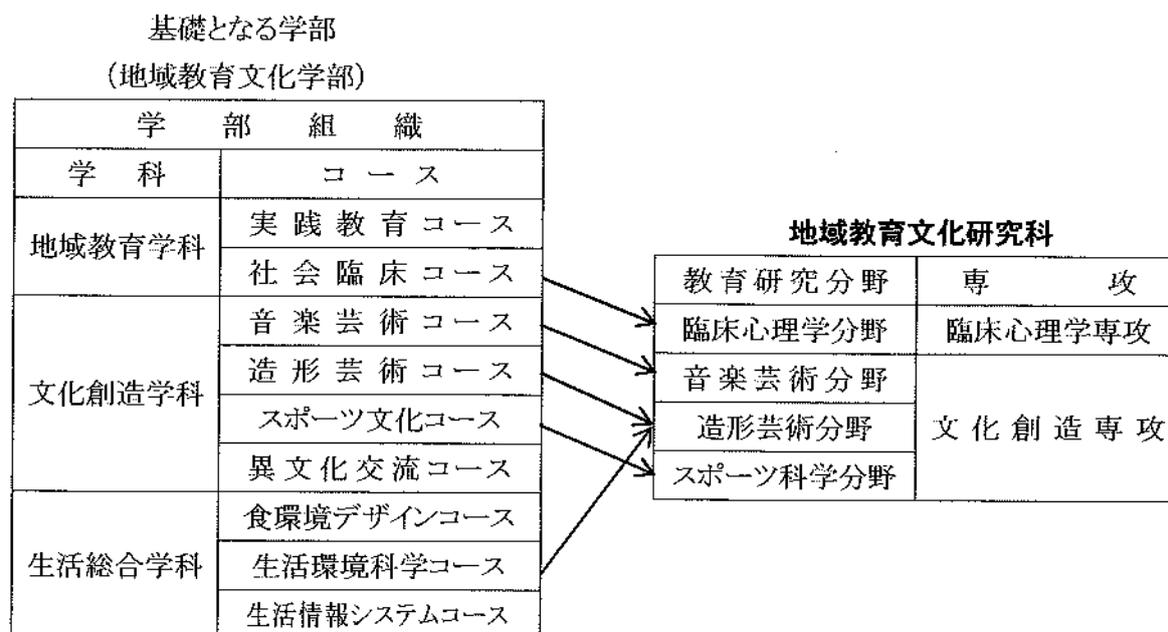


スポーツ科学分野院生実習室

地域教育文化学部3号館 3F (303)



地域教育文化学部と地域教育文化研究科の関係



資料19

山形大学大学院教育学研究科(修士課程)入学志願者数

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	志願者数 (人)	入学者数 (人)								
専攻										
学校教育	15(1,0,0)	5(0,0,0)	9(0,0,2)	7(0,0,2)	16(0,0,3)	7(0,0,2)	17(0,0,2)	6(0,0,0)	16(0,0,5)	6(0,0,1)
専修分野等										
学校臨床心理学分野										
音楽教育	2(1,0,0)	1(1,0,0)	7(0,0,0)	7(1,0,1)	4(1,0,1)	8(0,0,0)	5(0,0,1)	4(0,0,1)		
教科教育	7(3,1,0)	6(3,0,0)	5(2,1,0)	5(2,1,0)	3(1,0,0)	3(1,0,0)	1(0,0,0)	1(0,0,0)	5(0,0,0)	5(0,0,0)
	5(0,0,0)	5(0,0,0)	5(2,1,0)	5(2,1,0)	2(0,0,0)	1(0,0,0)	5(0,0,2)	5(0,0,2)	6(0,0,0)	5(0,0,0)
保健体育	14(5,1,0)	12(4,0,0)	17(4,2,2)	15(4,2,0)	12(2,0,4)	8(2,0,3)	14(0,0,4)	14(0,0,2)	16(0,0,6)	14(0,0,1)
小計										

()内の数次は左から順に、現職教員、外国人留学生、社会人の数を示す。